

2025年度

(令和7年度)

事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

学校法人 桐朋学園

目 次

I 法人の概要

1 基本情報	1
2 建学の精神	1
3 学校法人の沿革	2
4 設置する学校・学部・学科等	3
5 学校・学部・学科等の学生等数の状況	3
6 収容定員充足率	4
7 役員の概要	4
8 評議員の概要	5
9 会計監査人の概要	5
10 理事選任機関の概要	5
11 教職員の概要	5

II 事業の概要

1 主な教育・研究の概要	6
2 中期的な計画について	9
3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況	
(1) 法人	11
(2) 男子部門	13
(3) 女子部門	18
(4) 音楽部門	26
4 その他	
(1) 施設設備	29
(2) 学費及び補助金等	31
(3) 入学試験結果	33
(4) 教職員研究研修	35

III 財務の概要

1 決算の概要	
(1) 貸借対照表関係	37
(2) 事業活動収支計算書関係	38
(3) 資金収支計算書関係	39
2 その他	
(1) 資産運用の状況	40
(2) 学校債の状況	40
(3) 寄付金の状況	40
(4) 補助金の状況	41
3 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応	
(1) 男子部門	42
(2) 女子部門	43
(3) 音楽部門	44

IV 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

1 関係する決議の概要	45
2 体制整備及び運用状況の概要	46

附属明細書	47
-------	----

I 法人の概要

1 基本情報

(1)法人の名称	学校法人 桐朋学園
(2)主たる事務所	住所 〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1 電話番号 03-3300-2458 FAX番号 03-3300-2459 ホームページアドレス https://www.toho-gakuen.com

2 建学の精神

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、そして同じく仙川、調布及び富山市の計3つのキャンパスを持つ音楽部門の、3つの部門から成り立っています。

男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校（男子）、桐朋高等学校（男子）があります。

女子部門には、桐朋幼稚園、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校普通科、桐朋学園芸術短期大学があります。

音楽部門は、桐朋学園大学と桐朋女子高等学校内に音楽科（共学）を持ち、附属教育機関として全国各地に「子供のための音楽教室」を開いています。そして富山市には、桐朋学園大学院大学と桐朋オーケストラ・アカデミーがあります。

3つの部門に共通している建学の精神は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ、『人間教育』」です。各学校の教育目標は、下記のとおりです。

(1) 男子部門

桐朋学園小学校

「基礎学力を充実する」「心身を鍛える」「情操を培う」

桐朋中学校・桐朋高等学校

「『自主』『敬愛』『勤労』を教育目標として、民主的な社会の担い手としてふさわしい自主性と協調性に富む人格の形成」

(2) 女子部門

桐朋幼稚園

「一人ひとりの、幸せな子ども時代のために」
「子ども一人ひとりを原点にした保育の実現」

桐朋小学校

「子ども一人ひとりを原点にした教育の実現」
「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくための根っこを育てる」

桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

「『こころの健康 からだの健康』をモットーに、『ことばの力』を大切にし、創造性に富んだ主体性のある人間を育成する」

桐朋学園芸術短期大学

「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」

(3) 音楽部門

桐朋学園大学

桐朋学園大学大学院

桐朋女子高等学校音楽科

「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」
「音楽教育による社会貢献」
「世界における音楽文化の創造」

桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

「音楽の早期・正規教育 聴音教育による音感やリズム感の育成」
「理論や知識のシステマチックな教育」
「音楽スタイルの理解とその実践」
「個人演奏に加え、合唱・合奏の重視」

桐朋学園大学院大学

「演奏の様式性の獲得」
「感性教育の実践」

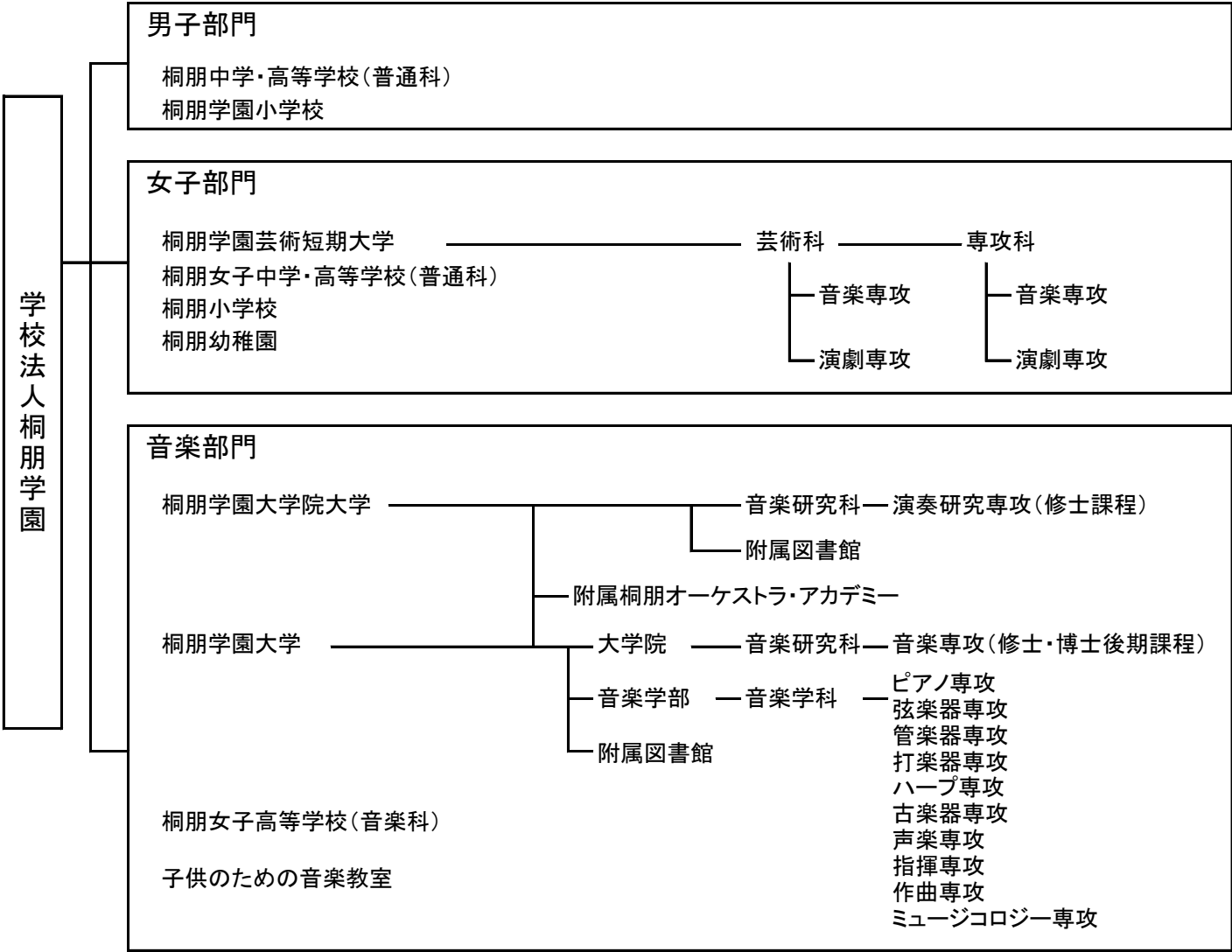
桐朋オーケストラ・アカデミー

「学園設立以来、培ってきた合奏教育をより高度に発展させる実践の場」

3 学校法人の沿革

昭和15年 11月 7日	財団法人山水育英会認可
昭和16年 3月 4日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和16年 3月20日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和22年 3月31日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和22年 4月 1日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和23年 3月10日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和23年10月 1日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和26年 3月 5日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月29日東京都より認可)
昭和27年 3月20日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和29年12月 1日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和30年 2月 1日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和33年11月12日	桐朋学園小学校設置認可
昭和36年 3月31日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和38年 3月30日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和39年 1月25日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和41年 1月25日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和41年12月26日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和42年 1月18日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和42年12月28日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和43年 3月30日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成 5年12月21日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成 7年 9月 1日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成10年12月22日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成11年 7月28日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成16年 3月31日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成16年 3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成17年 4月28日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成17年 7月29日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成17年 9月27日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成17年12月 1日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成18年 3月30日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成24年 5月 1日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成26年 3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成26年 3月31日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成27年 8月31日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成28年 8月31日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

4 設置する学校・学部・学科等



5 学校・学部・学科等の学生等数の状況

(2025年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	10	5	20	14
桐朋学園大学	大学院				
	音楽研究科修士課程	45	63	90	119
	音楽研究科博士後期課程	3	3	9	14
	音楽学部 音楽学科	130	135	670	524
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	120	98	240	184
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	350	312	1,050	947
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	350	160	1,050	490
	音楽科	100	57	300	165
桐朋中学校		300	268	900	779
桐朋女子中学校		300	175	900	524
桐朋学園小学校		80	68	480	427
桐朋小学校		80	72	480	432
桐朋幼稚園		26	25	80	77
総計		1,894	1,441	6,269	4,696

6 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	0.85	0.50	0.60	0.70	0.55
桐朋学園大学	大学院 音楽研究科	1.38	1.29	1.18	1.34	1.45
	音楽学部 音楽学科	0.88	0.85	0.77	0.72	0.83
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	0.89	0.85	0.71	0.76	0.79
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	0.90	0.90	0.90	0.90	0.87
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	0.47	0.46	0.47	0.46	0.46
	音楽科	0.55	0.53	0.54	0.55	0.50
桐朋中学校		0.89	0.87	0.87	0.86	0.85
桐朋女子中学校		0.53	0.53	0.55	0.58	0.55
桐朋学園小学校		0.89	0.88	0.89	0.88	0.87
桐朋小学校		0.90	0.89	0.90	0.90	0.89
桐朋幼稚園		1.00	0.97	0.96	0.98	0.97

7 役員の概要

理事：定数 10～13人 現員 13人 監事：定数2～4人 現員 2人 (2026年3月31日現在)

	氏 名	就任年月日 (直近重任日)	常勤・非 常勤の別	外部理事 該当の有無	主な現職等
* 理事	河原 勇人	2010.4.1 (2025.6.27)	常勤		理事長、元桐朋女子中学・高等学校校長
* 理事	原口 大助	2021.4.1 (2025.6.27)	常勤		桐朋学園小学校校長・桐朋中学・高等学校校長 男子部門代表理事
* 理事	永井 由比	2025.6.27	常勤		桐朋学園芸術短期大学学長 女子部門代表理事
* 理事	辰巳 明子	2022.4.1 (2025.6.27)	常勤		桐朋学園大学学長・桐朋学園大学院大学学長 音楽部門代表理事
* 理事	岡田 直紀	2024.4.1 (2025.6.27)	常勤		桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 理事	松原 秀樹	2024.4.1 (2025.6.27)	常勤		桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校教諭
* 理事	姫野 雅子	2025.6.27	常勤		桐朋学園大学音楽学部教授
※ 理事	矢島 基美	2016.4.1 (2025.6.27)	非常勤	○	(学)上智学院人事担当理事
※ 理事	薄井 紀子	2016.4.1 (2025.6.27)	非常勤	○	東京慈恵会医科大学客員教授
※ 理事	梅津 時比古	2013.4.1 (2025.6.27)	非常勤		桐朋学園大学音楽学部特命教授 前桐朋学園大学学長・桐朋学園大学院大学学長
※ 理事	関口 榮司	2018.4.1 (2025.6.27)	非常勤	○	前保隣教育財団理事、元保善高等学校校長
※ 理事	片岡 哲郎	2021.4.1 (2025.6.27)	非常勤		開智所沢小学校校長 前桐朋学園小学校校長・桐朋中学・高等学校校長
※ 理事	津田 伸子	2022.4.1 (2025.6.27)	非常勤	○	(有)サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
※ 監事	伊藤 昌毅	2016.4.1 (2025.6.27)	非常勤		弁護士、(学)武蔵野学院理事
※ 監事	関口 恭三	2018.4.1 (2024.4.1)	非常勤		公認会計士

・業務執行・非業務執行の別…*が業務執行理事

・責任限定契約の内容の概要

本法人は、私立学校法第94条第1項及び寄附行為第57条の規定により、上記※の役員との間に、同法第88条第1項に定める役員の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、寄附行為であらかじめ定めた額と同法第92条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

・補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

締結の事実はありません。

8 評議員の概要

定数 18人 現員18人		(2026年3月31日現在)	
氏 名	就任年月日 (直近重任日)	主な現職等	
有馬 佑介	2025. 3. 31 (2025. 6. 27)	桐朋学園小学校教諭	
檜垣 卓宏	2024. 4. 1 (2025. 6. 27)	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭	
吉川 陽大	2023. 4. 1 (2025. 6. 27)	桐朋女子中学・桐朋女子高等学校教諭	
高橋 宏幸	2025. 6. 27	桐朋学園芸術短期大学教授	
中井 恒仁	2020. 4. 1 (2025. 6. 27)	桐朋学園大学音楽学部教授	
道添 哲弥	2025. 6. 27	桐朋学園音楽部門事務職員	
相馬 次郎	2024. 5. 29 (2025. 6. 27)	桐朋中学・高等学校同窓会副会長	
若林 久美江	2025. 6. 27	桐朋女子高等学校同窓会役員	
藤井 隆太	2025. 6. 27	桐朋学園音楽部門同窓会副会長	
鳥羽 正浩	2024. 5. 29 (2025. 6. 27)	桐朋中学・高等学校PTA会長、八王子医師会会長	
草刈 大介	2024. 5. 29 (2025. 6. 27)	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、ブルーシープ(株)代表取締役	
木下 晶	2017. 4. 1 (2023. 4. 1)	富山県芸術文化協会参議	
井上 淳子	2021. 4. 1 (2024. 4. 1)	(学)井上学園理事長、鶏鳴幼稚園園長	
首藤 波津子	2017. 4. 1 (2023. 4. 1)	(特非)スポーツネットワークジャパン代表理事	
黒沼 吉弘	2025. 6. 27	大妻女子大学大学院人間文化研究科教授	
町田 育弥	2025. 6. 27	(学)岩槻町田学園理事長兼認定こども園恵泉幼稚園園長	
岩附 由香	2025. 6. 27	(特非)ACE代表	
齋藤 亀三	2025. 6. 27	斉藤倉庫(株)会長	

9 会計監査人の概要

定員数	1名
名称	有限責任 あずさ監査法人
就任年月日	2025年6月27日

- ・ 責任免除に関する決議等、責任限定契約及び補償契約・役員賠償責任保険契約の状況
締結等の事実はありません。

10 理事選任機関の概要

本法人の理事選任機関は、理事会です(寄附行為第6条第1項)。理事選任機関は、全ての理事をもって構成され(同条第2項)、理事を選任するときは、あらかじめ、評議員会の意見を聴取し、その意見を十分に参酌することとしています(同条第3項及び同条第4項)。その他運営等については、下記のとおりです。

招集	理事長による招集
定足数	特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数
議長	男子部門・女子部門・音楽部門の各代表理事のうちから理事会の定めた者
決議要件	出席者の過半数

11 教職員の概要

(2026年5月1日現在)					
部門	学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	50	12	16	12
	桐朋中学校	37	4	13	8
	桐朋学園小学校	22	0	4	9
	計	109	*1 16	33	29
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	19	6	125	2
	桐朋女子高等学校普通科	37	15	39	14
	桐朋女子中学校	30	2	36	10
	桐朋小学校	23	2	8	14
	桐朋幼稚園	6	0	1	7
	計	*2 115	25	209	47
音楽部門	桐朋学園大学院大学	5	3	4	0
	桐朋学園大学・大学院	38	20	419	45
	桐朋女子高等学校音楽科	9	5	23	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	355	8
	計	52	28	*3 801	55
法人本部		0	3	0	1
総計		276	72	1, 043	132

*1 外国語指導助手（ALT）を含む。
*2 特任教授、代替教員を含む。
*3 非常勤講師のほか、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

桐朋学園大学院大学音楽研究科、桐朋学園大学音楽学部音楽学科及び大学院音楽研究科並びに桐朋学園芸術短期大学芸術科のポリシーは、以下の通りです。

(1) 桐朋学園大学院大学音楽研究科

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

- ・音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に貢献することができる能力を身につけた学生
- ・音楽芸術の分野で真のリーダーになれるよう研鑽を積み、世界の音楽文化に多大な貢献ができる能力を身につけた学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

- ・桐朋学園大学院大学のカリキュラム（教育課程）は、学生各個の主体的な研究活動を活かしつつ、個々に専攻する楽器について、より高度な演奏技能を修得するとともに、作品創作研究を含む「重奏研究」「オーケストラとの協演によるコンチェルト実習」など、大学学部卒業後の研究にふさわしい多彩な内容となっている。とりわけ「重奏研究」においては、学生同士のみならず、「指導教員との共演」による実技研究を特徴としており、多様な演奏様式と表現法が学修することができる。また、「作品分析」などの講座系の授業も実習系の科目に深く関連させながら、厳選されたプログラムによって、学生各個の主体的研究が効果的に行われるように編成されている。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

○桐朋学園大学院大学が求める学生像

桐朋学園大学院大学は、芸術行為・音楽実践の原点に立ち返り「演奏の様式性の獲得」と「感性教育の実践」を建学の精神とし、将来「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に活躍することのできる者」を学生として受け入れている。

○入試の方法

桐朋学園大学院大学の建学の精神・教育目的を理解し、桐朋学園大学院大学における研究に必要な音楽的能力を有する者を、演奏実技試験及び研究計画書に基づく面接によって選抜している。

○入試課題

桐朋学園大学院大学は、音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家を育成し、国内はもとより、国際的にも活躍する人材の輩出を目指している。入学試験においては、顕在的、潜在的能力を有する者を「技術の到達度」、「表現力」、「感性」、「個性」などの観点を主眼としつつ、実技の能力のみに偏らず、大学院での具体的な研究計画を提出させ、総合的に桐朋学園大学院大学に受け入れるべき学生かどうかを判定している。

(2) 桐朋学園大学音楽学部音楽学科

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

I 専門分野を究めるための表現・意欲の分野

- ・音楽の伝統文化を継承しながら、実践的でレベルの高い個性ある表現力を有している
- ・専門分野を主体的に学び続ける力を持っている

II 専門を支える基礎力としての知識・技能の分野

- ・音楽家として必要な理論・知識・技能を有している
- ・耳と感性の訓練により、自身の音を聴き、よいものを探求して見つけ出す能力を持っている

III 柔軟で汎用的な視点を持つための理解・判断の分野

- ・多様な文化的背景をもつ人びととの相互理解をはかり、他者とのコミュニケーションに高い能力を発揮することができる
- ・今日的な課題について多角的な視点から見つめ、適切な判断ができる

IV 専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造するための関心・創造的思考の分野

- ・個人の能力を生かして、他者とともに音楽をつくり、みずからの能力もさらに広げていくことができる
- ・幅広い音楽文化を学び、音楽表現の可能性を広げることができる

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

ディプロマ・ポリシーに掲げた4分野の能力を習得するため、3群の科目群を用意し、必修部分と選択部分を設定する。詳しくは、以下に掲載している。

<https://www.tohomusic.ac.jp/college/profile/curriculum.html>

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
- ・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
- ・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

(3) 桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

修士課程では、ディプロマ・ポリシーを次の通り定めます。

以下の能力を身につけ、かつ修士課程の修了要件を満たした者に修士の学位を授与します。

- ・学部等で修得した能力を基盤としながら、音楽実践に不可欠な高度な知識と技能を有している
- ・自立した演奏、創作、研究活動を行うために必要な高い能力を有している
- ・国内外において優れた教育者として幅広く活動し、社会に貢献するための能力を有している

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

修士課程は音楽専攻のもとにピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学、室内楽の6コースを置き、専攻としてのカリキュラム・ポリシーを以下の通り定めます。

大学院修士課程は、音楽の演奏、創作、研究に不可欠な高度な能力を修得し、自立した活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。そのために、各コースの特質に適合した教育課程を編成している。2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技・論文指導あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院音楽研究科修士課程は、以下のような意欲と能力を備えた者を入学試験によって選抜します。

- ・高度に専門的かつ広汎な視野に立ち、音楽についての学識と技術をもった音楽の実践、創作、研究を行う意欲のある者
- ・社会における音楽の役割について強い自覚を有し、幅広い視野から知的な関心や柔軟な感性を育むことのできる者
- ・本学の建学の精神と教育目的に基づき、学修するのに相応しい豊かな人間性を有する者

(4) 桐朋学園大学大学院音楽研究科博士後期課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーを以下のように定めます。

以下の能力を身につけ、かつ博士後期課程の修了要件を満たした者に博士の学位を授与します。

- ・修士課程等で修得した能力を基盤としながら、極めて高度な知識と卓越した技能を有している
- ・音楽に関する学術的研究を自立的に行う能力を有している
- ・国内外で演奏、創作、研究、教育において、主動的な役割を果たし得る素養を身につけている

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

博士後期課程のカリキュラム・ポリシーを次の通り定めます。

大学院博士後期課程は、専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能を持って学術的研究、演奏、創作を行う能力を獲得することを目的とする。修了後には高等教育機関や研究機関で、教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を修得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院博士後期課程は以下のような意欲と能力を備えた者を、入学試験によって選抜します。

- ・専門領域、また広く音楽芸術全般に関する専門的な知識や技能を修得している者
- ・自らの課題に基づいて高度な研究を実施するための資質や意欲があり、演奏、創作、学術研究、教育等において広く国際的な視野に立って音楽芸術を深く考究する資質や意欲がある者
- ・本学の建学の精神と教育目的に基づき、学修するのに相応しい豊かな人間性を有する者

(5) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・〈楽譜を読み取る力〉
音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し、楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。
- ・〈演奏表現〉
個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。
- ・〈アンサンブル〉
古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・ 専門実技、音楽理論における知識と基礎的な理解力を有する者。(知識・理解)
- ・ 楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。(思考・判断)
- ・ 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- ・ 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。(態度)
- ・ プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。(技能・表現)

(6) 桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科演劇専攻は幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・ 〈戯曲を読み解く力〉
戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。
- ・ 〈身体訓練〉
声を含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。
- ・ 〈アンサンブル〉
アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・ 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。(知識・理解)
- ・ 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。(思考・判断)
- ・ 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- ・ 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。(態度)
- ・ 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。(技能・表現)

2 中期的な計画について

現在桐朋学園では、2024年度から始まる5か年の中期的な計画（以下「中期計画」といいます。）（2024年3月19日評議員会承認、同日理事会決定）が進行中です。

本法人は、男子部門・女子部門・音楽部門の3つの部門で構成されています。3つの部門はそれぞれが所管する学校の教育と運営を責任を持って主体的に進めています。このため中期計画の作成も3部門それぞれが主体的に行っています。各部門が中期計画を作成するにあたっては、以下の法人全体の基本方針を踏まえています。

- I **【教育】** 教育研究活動の改善及び質の向上を図り、自ら課題を発見し、多様な価値観の混在する社会に主体的に対応できる人間を育成する。
- II **【人事】** 優秀な教職員を確保して、適正な人事計画のもと教育研究活動に資する人材を育成する。法人内の連携強化のため優秀な人材を活用する。
- III **【財務】** 財政基盤の安定化を図るため、必要な学生生徒数を確保するとともに経費の削減に積極的に取り組む。
- IV **【施設設備】** 施設設備を整備して、教育研究環境の充実と向上を図る。
- V **【組織】** 部門としてのガバナンス機能をさらに強化するとともに、法人として一定のマネジメント機能が発揮できるようにする。

各部門が掲げた中期計画の課題は、以下のとおりです。主な課題については、2025年度の実施状況等も略記しました。詳細は、「3 事業総括、主な事業計画と進捗状況」（本報告書14頁～27頁）をご覧ください。

○男子部門

	学校名	課題	
教育	桐朋中学校・高等学校	教育の質の向上	・合理的配慮要する生徒への定期考査別室受験実施
		入学者の学力支援	
		進路指導の充実	・中1入学時における情報リテラシー教育の実施
		ICT機器の整備と活用	
	桐朋学園小学校	研修・行事プログラムの充実	・高学年担任の業務見直しによりその負担を軽減 ・学級定員34名の実施
		教育環境の整備	
人事		行事プログラムの充実	
		専任教職員の人事 (採用/人数適正化)	・事務部指揮系統、業務内容等を検討 ・衛生委、産業医のあり方見直し 産業医報酬改定 ・非常勤講師への「労働条件通知書」を見直し
		職制改革	
		働き方改革	・変形労働時間制導入に向けた本格的検討を開始
財務		高年齢者の雇用	・非正規教員の雇用年齢70歳への引上げを決定
		志願者数の確保	・高校入学金延納制度等導入
		収入基盤の確保	
		適正な収支バランスの維持	・小中高全学年授業料等の増額を実施
		補助金の確保	
施設設備		外部資金の獲得	・高1夏季民泊、「特色ある教育の取組」の対象に
		学内ネットワークシステム構築	
		既存設備の点検・見直し・改善	
		省エネルギー・省資源対応	・中高ホームルーム教室のLED化

○女子部門

	学校名	課題	
教育	桐朋学園芸術短期大学	教育の質の向上 学生の確保	・学部化構想に関し音楽部門と現時点の課題を確認
	桐朋女子中学・高等学校(普通科)	教育の質の向上	・高校理科の教育課程変更等 ・合理的配慮要する生徒の支援及び保護者との連携
		進学指導の充実 海外研修プログラムの充実 大学との連携	・中高全学年下校延長措置とこれに伴う 自習室の管理体制整備 ・「スタディールーム」への国数英指導者の配備
	桐朋小学校	教育の質の向上	・小5・小6児童に学習支援員を配備
	桐朋幼稚園	保育の質の向上	・安全講習の検証及び実施
人事		教職員数の適正化	
財務		志願者数の確保 収入基盤の確保 外部資金の獲得 経費削減と適正な予算配分 業務の効率化 高年齢者の雇用	・乳幼児教育に関する大妻女子大講師との共同研究 ・短大アウトリーチによる高校演劇部対象の演技指導 ・高校推薦入試適用拡大のこと公立中を訪問し周知 ・中学入試日程の変更
	施設設備	校舎改修 教育環境の整備 省エネルギー・省資源対応	・事務部に会計システムを導入及び問題点洗い出し ・改修計画の凍結を決定

○音楽部門

	学校名	課題	
教育	桐朋学園大学(学部)	教育の質の保証 学生の確保・広報 地域との連携 民間企業との連携 海外研究機関との連携	・授業内容見直しによる科目の名称変更及び新設 ・「編作コース」→「MSD(Music and Sound Design)」へ名称変更 ・マスタークラス22回開講
	桐朋学園大学(大学院)	学生の確保	・体験レッスン等の実施(声楽は無料で5回実施) ・総合型等多様な入試方式の導入 ・一般入試遠隔方式の2025年度での廃止決定 ・音楽教室にて大学教員による特別授業29回実施
	桐朋女子高等学校(音楽科)	教育の質の保証 生徒の確保・広報	・調布市市制70周年関連イベントに参加 ・「ピアノ初見」授業の検証
	音楽教室	教育の質の保証	・学校説明会・体験レッスン会の充実、強化 ・音楽教室生向けの高校授業見学会実施 ・ホームページリニューアル、新サイト運用開始
	桐朋学園大学院大学	教育の質の保証 学生の確保・広報 公開講座受講	・富山市内在住者を2名、専任教員に採用決定
	オーケストラ・アカデミー	教育の質の保証 在籍者数の確保 演奏会の充実	
人事		適正な人員構成の検討 高年齢者の雇用 職制改革 SD活動の推進 FD活動の推進	・富山キャンパス公式Instagramの開設
財務		適正な収支バランスの維持 補助金の確保 音楽教室累積赤字の解消 外部資金の獲得 学生の確保 在籍者の適時把握(音楽教室生) 業務の効率化	
施設設備		校舎補修・メンテナンス	

3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況

(1) 法人

①「はじめに」桐朋学園の構成など

桐朋学園が経営方針として重視しているのが、三部門独立採算制と教育第一主義を守り、かつ、法人としての一体感を以て経営にあたることです。

桐朋学園は、部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかんがりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。その上で三部門は、法人としての一体性との両立を堅持し、一個の法人として成り立つ組織でなければなりません。そのことが、部門間の相互理解を醸成し、学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。

部門ごとに教育には特色がありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切にし、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布市と富山市に展開する音楽部門の三部門から成っています。

男子部門には、桐朋高等学校、桐朋中学校、桐朋学園小学校（共学）があり、2,153名の生徒・児童が学んでいます。女子部門には、桐朋学園芸術短期大学、桐朋女子高等学校・普通科、桐朋女子中学校、桐朋小学校（共学）、桐朋幼稚園（共学）があり、1,707名の学生・生徒・児童・園児が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋学園大学音楽学部並びに大学院と、桐朋女子高等学校・音楽科（共学）が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、836名の学生・生徒が学んでいます。別に附属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。

以上のように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

②外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

A I（人工知能）の急速な進化が学校を取り巻く社会状況のめまぐるしい変化を象徴しているかのようです。そしてそれが私たちの日常に本格的に浸透し、教育分野にも大きな影響を与えています。いまやA Iが隣にいる時代。A Iには学びを豊かにする期待がある一方で、思考力の低下など弊害も指摘されています。例えば、児童生徒がA Iに触れる機会が増えると、考えることをしなくなるのではないかと懸念が広がっています。我々は、子どもの頃から自分で考え、調べ、書く、の繰り返しによって書く力を養ってきました。文章を書くことは、書く過程で頭を鍛え、創造的な活動の土台となってきました。変化する日常の中で、考える力、書く力の鍛錬をどうするのか、日常生活のめまぐるしい変化の中で、守るべきたいへん重要な課題となっています。

S N Sなど膨大な外部情報に日常的に晒されている若者たちは、ネットで浅薄な情報を得ることに慣れ、本を読み、熟考する習慣が薄れて行きます。そんな子どもたちの将来に不安を抱きつつ、それでも彼らには、ネットを駆使し、本を読み、自分で考える力を養い、人としての理性の備わった大人に成長して欲しいと願っています。そのために何をなすべきなのか、少子化が進み、対策にも工夫と変化が求められる時代ですが、各部門は研究検討を重ね対応に工夫しています。

以下、2025年度における各部門の主な事業に触れますが、詳細は各部門の報告を参照してください。

③男子部門の主な事業

長年、計画的に検討と実施を進めてきた少子化対策（学級定員削減）は、小学校で全学年、定員34名が実現し、2028年度入学生からの32名を目指し、第1段階を終えました。この定員減の対策は、現在中学第1学年まで進められました。一方教員の働き方改革の動きにも通じることですが、検討を重ねてきた小学校高学年担当教員の業務負担軽減のための施策も具体的に進められ、小学校の専科制の導入が検討され、中学・高校の講師（指導教員）の補強対策も整えられました。定員削減の一環として小学校、中学・高校で、授業料及び教育環境整備費の改定が実施され、新入生への同様の対応計画も整えられて、順次実施されることとなりました。

近年、配慮が必要な生徒への対応として合理的配慮が求められるようになりましたが、具体的な実施の在り方が検討され、できるところからと、早速対応を始めました。加えて受験生に対しては、募集要項に明記し周知を図りました。

情報機器がどんどん進化する社会で、効果的な使用について研究し、情報リテラシー教育にも力を入れています。タブレット等の機器は周知な計画のもとで活用を進めます。自律的学習者の育成を目標に掲げながら、教育の質の向上を常に意識し臨んでいます。

④女子部門の主な事業

学生・生徒の安定的確保、財務状況の改善など、諸課題の改善に力を注いできました。2025年度は、進めている将来構想検討のうち、学校規模についての全体構想が確定するまでの間、校舎建築計画の検討を凍結することとし、その一方で必要な修繕を計画的に進めることとしました。また、それとは別に各学校、受験者層への訴求力向上も含め必要性の高い小規模改修を別予算を立てて進めて行くこととし、それぞれ進展がありました。短大演劇の実習室増設、それに伴う食堂運営の停止、中高部・初等部の改修計画が決まっています。

小学生から短大生まで広く活用され、立地条件も非常に良く、教育的価値の高い八ヶ岳高原寮については、将来構想の検討が続いています。

短大では四大化に向け音楽部門との協議を進める中、学位授与機構の認定専攻科の更なる充実を図り、新設された声優養成コースのカリキュラムがいよいよ始動しました。

グローバル教育が当たり前となった社会にあって、高校では対象地をニュージーランド、豪州・シンガポールとした2種類の海外研修プログラムを実施し、26年度から実施する中学生対象の海外研修プログラムの充実が図られました。全国的に探究学習が注目され、指導に重点が置かれる中で、中3高1のBブロックで展開するプログラムの更なる充実が必須です。

⑤音楽部門の主な事業

音楽部門は、この先1～2年のうちに定年退職者が多数見込まれることから、世代交代を意識せざるを得ない時を迎えています。将来的な受験者・入学者減少の傾向に鑑み、高い専門教育水準を維持しつつ、スムーズな世代交代が行えるよう周到に準備を重ね、いよいよその方向性も見えてきました。在籍する学生・生徒の数と教職員の適正人数についても検討を重ね、来るべき時代も輝き続けるための準備に邁進しています。

少子化、社会動向など様々な条件の重なりの中、「子どものための音楽教室」の生徒数の減少も大きく、この数年取り組みが功を奏していた対策も今回ばかりは結果を出せず、久しぶりに累積赤字を増加させる年となりました。

地域社会との連携事業も欠かせません。調布、富山ともに、年間を通したくさんの演奏会予定をこなし、芸術の普及・新興と、学生等にとっては発表の場の創生の役を果たしています。

世の中の多様なニーズに対応すべく導入が研究された新たな領域の教育、「ミュージコロジー」と「MSD（ミュージック アンド サウンド デザイン）」の2つは、まだ発展の途上にあり、新設されたスタジオの活用と共に、今後の充実と浸透が期待されます。

⑥法人全体として

改正私立学校法の施行以降、それに沿った法人規程の見直しと整備が目下進行中です。

法人全体の目標達成のため、内部統制及び内部監査両システムの整備と構築を優先課題として掲げてきました。監査環境の整備と支援も重要な事業ですが、監事監査に関して、監事が円滑に職務が執行できるよう、引き続き環境整備に努めたいと思います。また、内部監査については、監査委員会を発足させ、初年度の活動テーマを絞り、初めての実質的な監査が業務として行われました。その結果、部門間の連携を一層緊密なものとしつつ、独自性を共有し、部門それぞれが主体性を発揮しながら課題発見、課題解決を図る格好のシステムになり得ると実感しています。

2020年度始まった中期計画策定と取り組みは、会議で揉まれながら成長し、ローリング型から固定型へと移行してきました。2024年度を起点とする新たな5か年中期計画（2024～2028）は前半の2年間を終え、いよいよ折り返しの年に入りました。ガバナンス体制の整備に細心の注意を払う1年1年を重ねていますが、これまで手つかずだったり、成果が十分に得られず終わっている計画については、遅れを取り戻す調整を図りつつ、後半に続けられるよう、計画を推進して行きたいと考えています。

資料文書の作成とともに3か月に1度のペースで行うこととしてスタートした「職務執行状況報告」は、回を重ねながら1年が経過し、報告すべき項目や、報告スタイルも徐々に定着してきました。引き続き研究を重ねて参ります。

（学校法人桐朋学園 理事長 河原 勇人）

(2) 男子部門

①2025年度の事業の概要

2025年度もインフルエンザ等による学級閉鎖等が相次ぎ、中学では11月の運動会を中止とせざるを得ませんでしたし、学園小では2月初旬に学校閉鎖の対応を余儀なくされました。それでも、日常の学校生活はもちろん、宿泊行事をはじめすべての行事を予定した形で行うことができました。小学6年生の臨海学校では、波やうねりの影響を受けはしましたが遠泳を実施し子どもたちは達成感を得ていましたし、中高の桐朋祭は、昨年度に引き続き1万人を超える一般来場者を迎え、活気溢れる中で参加団体・委員の生徒は充実した活動を行うことができました。

2025年度の男子部門事業計画のうち、主な実施状況をご報告いたします。中高では、配慮が必要な生徒への対応として、合理的配慮の観点から定期考査での別室受験対応を進めました。その中で、別室受験を認めるか否かの判断基準、また、成績処理における別室受験の位置付け等については、引き続き学内での検討を進めている状況で、今後具体的な事例を重ねながら継続的に取り組んでまいります。

学園小では、ここ数年高学年担任の負担軽減に関する検討を続けており、担任業務の精査により、担任外の教員が担当する範囲を増やしたり、緩やかな形での教科担任制を進め、授業負担の軽減を図ったりしています。今年度も一定の整理、それに伴う改善を行うことができました。

志望者確保、さらには財務に関わる件として、中学は2026年度より、現行42名のクラス定員から2名減らし40名定員とするにあたり、中学入試での募集定員の見直しを進め、現行2月1日120名・2日60名を、クラス定員減に伴い、1日を110名とすることを決めました。

施設設備に関わる点では、2007年度以来改修工事を行っていない中高体育館・小学校北館の改修工事計画を立て、2026年度より屋上防水・外壁補修等の工事を順次行っていきます。

児童・生徒の安定的な確保に関してですが、出願者数は中学が微増、小学校・高校は微減の範囲となり、入学者は、小学校で3月初旬での辞退が1名あり、定員－1名でのスタート、中学は定員＋6名、高校は定員＋5名でのスタートとなります。特に、高校は、受験しやすさを高めるべく入試制度に一部改定を加え、入学金の延納制度を導入し、補欠の発表も行うことといたしました。残念ながら出願者増には繋がりませんでしたが、入学予定者の歩留まり予測には大きなプラスになるとの手応えを得ることができました。今回の入試制度改定のなおいっそうの周知を図り、出願者増に繋げていきたいと考えています。

最後に、2026年度に向けた大学合格状況についてです。4月初の集計で、卒業した80期生の国公立大や私立大の合格者総数は多めの数となり、合格体験率は72%で、ここ10年間で上から2番目、現役進学率は62%と、ここ10年間で最も高い数字となっています。東大・東京科学大(旧東工大)・一橋大・京大・国公立医学部の現役合格者総数は32名で、ここ10年の平均よりやや多めの数となりました。この学年は、受験者数と合格者数で算出する合格率は東大で過去にないほど高く、難関大においてもここ10年で上から2番目となりました。今年の傾向をまとめると、受験先を生徒自身で個々に判断した結果でもありますが、自ら受けるべき大学を受け、相応の結果を得たと言えるように思います。今後も、生徒の希望を叶える進路指導の工夫にいっそう取り組んでまいりたいと考えております。

②2025年度の主な事業計画及びその進捗状況

○教育（桐朋中学校・高等学校）

事業名 教育の質の向上を目指す課題の提示と実践

概要

- ① 新教育課程の実施完了、新教育課程完成後の振り返り(大学進学実績を含めて)を行う。
- ② 生徒の生活指導
- ③ (合理的) 配慮が必要な生徒への対応

進捗状況等

- ① 昨年度、全学年で実施となった教育課程について、教科研修を中心に検証を行った。
- ② 自転車のルールや登下校のマナーについて指導を行った。また、SNSやスマートフォンの適切な扱いに関する留意点を伝え、情報モラルの向上を図った。／いじめに関するアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めたほか、中学1年生を対象に車椅子バスケットボールの体験会を行い、他者理解を深める機会とした。
- ③ 生徒募集要項(中学校・高等学校)に配慮等を必要とする場合についての記載を入れた。／定期考査を通常教室で受けられない生徒複数を別室受験で対応した。

事業名 入学者の学力支援

概要

- ① 校内での自習室開設に向けて検討を行う。

進捗状況等

- ① 現行の教員勤務体制を変えずに、外部警備員と大学生によるチューターで実施する方向で検討を進めたが、実施には至らなかった。

事業名 高校生の志望実現に向けた進路指導の充実

概要

- ① 進路企画の充実を進める。

進捗状況等

- ・ 杏林大学医学部付属病院訪問
7/8(火) 松田剛明先生、矢島知治先生
- ・ 東京慈恵会医科大学研究室訪問
10/2(木) 岡部正隆先生、岡野ジェイムス洋先生、山口真紀先生、平塚理恵先生
- ・ 東京大学法科大学院出張教室「法について学ぼう」(本校にて実施)
11/8(土) 郡司大貴さんほか
- ・ 国際基督教大学訪問
12/18(木) 松田浩道先生(ほかにICUに通っている桐朋卒業の現役大学生3名)
- ・ 医学部生との交流会
2/28(土) 本校で実施。75期佐々木応嘉さんら医学部生らと交流

事業名 新学習指導要領下での電子情報機器の活用

概要

- ① ICT機器の整備
- ② 情報リテラシー教育

進捗状況等

- ① 中学生へタブレット端末は導入しないことを決定した。／高校生の次年度導入する機器は、保護者負担が少ない機種を選定。Surface Go4からLenovoへ変更した。
- ② 中1の4月はじめに学年教員からスマートフォンを扱う上での注意点を説明し、1学期の技術の授業でSNS利用のリテラシーなど、情報発信時の配慮について取り扱った。

事業名 研修・行事プログラムの充実

概要

- ① 各行事の意義の再確認とそれに基づく生徒の活動内容を見直し、実施する。
- ② グローバル化対応および語学研修の充実

進捗状況等

- ① 中学の遠足について、中1は新コースで実施し、中2と中3は旧コースと類似しているため、安全面を考慮したうえでのコースで実施した。どの学年も予定通りの行程で終えることができた。
- ② ハロウ校サマースクールを実施した。49名の参加者があった。

○教育(桐朋学園小学校)

事業名 教育環境の整備を目指す課題の提示と実践

概要

- ① 教科担任制・専科制の検討を進める。
- ② (合理的)配慮が必要な児童への対応

進捗状況等

- ① 高学年では担任がお互いに両クラスの教科授業を受け持つ交換授業を行い、学級担任制の良さを保ちつつ、緩やかな教科担任制を取り入れた。／高学年の担任の仕事の見直しを行い、専科が一部の仕事を受け持つことで負担軽減を図った。また、高学年担任の校務委員会免除など分掌についても整理を行った。
- ② 今年度入学者より定員を36名から34名に減らした。よりきめ細やかに児童対応を行えるようになることで「一人ひとりの子どもの、心のすみずみにまで行きわたる教育を」という小学校の実践が進んだ。／小学校でスクールカウンセラーを週1日常駐させる案を検討し、予算化のうえ2026年度からの実行を目指すことにした。

事業名 研修・行事プログラムの充実

概要

- ① タブレット端末の実践報告
- ② 情報リテラシー教育
- ③ 行事プログラムの充実
- ④ 国際理解教育

進捗状況等

- ① タブレット端末の利用については主に高学年において日常的な光景となりつつある。日々の実践を積み上げるなかで、どのような場面において有用性があるのかについて経験則が積み重ねられつつある。
- ② 児童だけでなく保護者を対象にした情報リテラシーの講義を年に1回開講した。
- ③ 5年生の奥蓼科林間学校の登山、6年生の岩井臨海学校の遠泳という伝統的行事について、研修にて協議を行い、登山、遠泳についても専門家から教員が研修を受ける機会を実施した。
- ④ 韓国の方を招き、3年生から6年生までの児童が文化や子どもたちの生活を紹介していただいた。韓国への理解を深めるとともに、異文化への興味を持った。

〇人事

事業名 専任教職員の人事(採用／人数の適正化)

概要

- ① 情報科教員採用可否の決定
- ② 外国人専任教員の採用

進捗状況等

- ① 情報科教員採用について十分な検討はできなかった。
- ② 外国人の専任採用はその意義を確認したうえで、職務内容・待遇等について検討し原案を審議機関に提示したが、未整理な課題が残るとして継続協議とした。

事業名 職制改革

概要

- ① 中高校務分掌および事務部職務内容の整理再編
 - ・中高図書館体制の再構築
 - ・中高視聴覚パートの業務再編
 - ・衛生委員会の見直し
- ② 広報活動の充実
 - ・新版学校紹介動画の使用
 - ・2027年度版学校案内冊子の刷新準備
 - ・多摩地区及び23区西部、川崎・相模原への周知活動
- ③ ガバナンス体制の見直し
 - ・私学法改正に合わせ、ガバナンス体制の見直し・検討を今年度より始まる内部監査と連動させて行う。
- ④ 諸規定改正
 - ・労働条件通知書の見直し
 - ・産業医の業務内容および報酬の改定
- ⑤ その他
 - ・こども性暴力防止法への対応

進捗状況等

- ① 中高視聴覚パートの人事を機に、業務内容、所属、指揮系統の見直しについて検討を行い、翌年度からの体制を整える検討を行った。／衛生委員会について、産業医と話し合いをもつ一方、内部監査による指摘を基に改善に努めた。
- ② <中高に関して> 2025年度学校説明会より新版学校紹介動画を使用した。／2018年度より使用していた学校案内冊子をリニューアルするために準備を行った。新版のテーマは「自由力×森（みや林）と空×風」。現行の案内冊子内で文字による説明が多い部分は見せ方を工夫し、写真や資料などで具体的材料を示すようにした。／東京メトロ車両内窓上ポスター掲出（東武線～半蔵門線～田園都市線）。武蔵小杉から南武線にて谷保駅への通学を想定している。
- ③ 内部監査報告を踏まえ、衛生委員会における産業医のかかわり方について見直しに着手した。
- ④ 労働条件通知書では、2026年度より非常勤講師の通知書に時間割を掲載し、定期考査時の時間変更を契約時に周知することにした。／産業医の業務内容に応じた報酬額を検討し、より適正な報酬額に変更した。また教職員に向けて、産業医を身近に感じるよう講演会を実施した。／子の看護等休暇について、法令に則り改定を行った。／代表理事、選出理事選出の教科・部署に対して任期1期目には臨時的任用教員/臨時職員を採用することを、また2期目以降信任された場合は、後任人事（「先取り人事」）を行うことを決定した。／非常勤講師の待遇改善を行った。
- ⑤ こども性暴力防止法の2026年12月施行の発表を受け、ガイドラインの内容、法施行までの準備について確認を行った。

事業名 働き方改革

概要

- ① 変形労働時間制導入に向けての検討
 - ・働き方改革の文脈の中で、変形労働時間制実現の可否について検討し、方向性を確定させる。
- ② 求人案内の検討
 - ・応募者が魅力を感じるような求人案内の作成を検討し、利用を開始する。

進捗状況等

- ① 公立学校の教職調整額改定を受け、本校におけるその意義の再確認を行うとともに導入に向けて具体的検討に着手した。／残業代支給の可能性についても検討を始め、あわせて専門機関からも助言を得た。
- ② 2025年度の募集要項から初任給ほか学校の福利厚生に関する記載を充実させた。／募集に際しては、学校HP以外に民間の求人サイトも積極的に活用した。

事業名 高齢者の雇用

概要

- ① 65歳以降の雇用について、非常勤講師としての採用が可能かどうか検討し決定する。

進捗状況等

- ① 急な病気休暇、短期の育児休業等により通常の代替員補充が困難な場合に、70歳まで非正規の年齢上限を上げることを決定した。

○財務

事業名 志望者数の確保

概要

- ① クラス定員減
 - ・小学校で1学級34名実現
- ② 高校入試改革
 - ・募集要項での発表

進捗状況等

- ① 予定通り、小学校1年生より1学級34名の定員を実現させた。／中学では、2026年度実施の中1クラス定員減に基づいて入学試験を実施した。
- ② 2026年度入試より、入学金の延納制度、および合格発表時の補欠者の発表を導入し、募集要項、学校説明会等で発表した。

事業名 収入基盤の確保

概要

- ① 2025年度、学費の値上げを行う。
- ② 小学校クラス定員減にともなう学費改定
- ③ 中学高校クラス定員減にともなう学費改定

進捗状況等

- ① 2025年度より小1から高3まで授業料を月額2,000円、教育環境整備費を月額1,000円増額することを実施した。
- ② 小学校ではクラス定員減による減収相殺分として2025年度新入生より教育環境整備費の月額4,000円増額を実施した。
- ③ 同様に中学でも2026年度新入生からクラス定員減により、教育環境整備費を月額4,000円増額することを決定した。

事業名 適正な収支バランスの維持

概要

- ① 支出項目の検討
- ② 資産の確保
- ③ 桐朋奨学会の見直し

進捗状況等

- ① 教職調整額について検討し、東京都に準じて4%から5%に引き上げた。／中高体育館の改修工事にかかる費用について、財務見通しの中で検討を行った。
- ② 昨年度に引き続き、都債を購入。リスクの少ない運用を目指す。／私学共済事業団による経営相談を受け、減価償却を含む経常収支ベースで黒字を目指すという助言を得た。

事業名 補助金の確保	
概要	
① 経常費補助金の獲得 ② 高校授業料実質無償化の調査・研究	
進捗状況等	
① 2025年度の経常費補助金において、高1林間学校の民泊活動が特色ある活動として認定され補助対象となった。 ② 授業料軽減助成金については国の就学支援金の受給額との調整が必要であること、また都民の未申請者に対し申請を促す必要があること等が判明した。	

○施設設備

事業名 学校ネットワークシステムの構築	
概要	
① デジタル技術による業務の効率化 ・教職員用PCの更新 ・規程のシェアポイント活用を検討	
進捗状況等	
① 教職員用PCは9月に新規入れ替えをし、これまで使用していたPCの一部については、ソフトウェアを更新することで可能な限りの再利用を試みた(講師用等)。／規程のシェアポイント活用については、ニーズが想定したほどなかったため検討を中断した。今後ニーズが生じた際には改めて検討する。	

事業名 既存設備の点検、見直し、改善	
概要	
① ICT機器の整備 ・関連部署の意思疎通による業務の効率化 ・関連教室の機器更新の計画策定 ② 既存設備の点検 ・中高体育館、小学校北館の改修について具体案を立てる。 ・現校舎の点検補修に関し、工程・予算の計画を策定する。 ③ 各種設備の使用状況の確認 ・中高体育館空調設備の使用状況を精査する。	

進捗状況等	
① ICT関連の複数部署による連絡会議を二度持ち、今後の保守、更新、予算軽減について協議をし今後5年を見込む案を確認した。／PC教室、CALL教室の更新について互換性のある仕様になるよう検討した。 ② 中高体育館、小北館の改修工事について日程および見積もり等の検討を行い、前者については業者選定、契約まで行った。／現校舎の補修にかかわる日程、費用の概算について一次資料の作成まで行った。／小体育館への空調設備設置を決定した(補助金あり)。	

事業名 省エネルギー、省資源対応	
概要	
① 省エネ機器等切替検討 ・中高ホームルーム教室のLED化を実施予定。	
進捗状況等	
① 中高ホームルーム教室のLED化を完了した。	

(3) 女子部門

①2025年度の事業の概要

女子部門では、学園の教育理念である「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ『人間教育』」をもとに、「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人間の育成をめざす」（短大部）、「『こころの健康 からだの健康』をモットーに、『ことばの力』を大切に、創造力に富んだ主体性のある人間を育成する」（中高部）、「一人ひとりの幸せな子ども時代のために、生きるために必要な根を育てる」「子ども一人ひとりを原点に、自分自身の人生の主人公として、社会のつくり手となりゆくための根を育てる」（初等部）をそれぞれの教育目標として取り組みました。

短大部では、少人数のクラス編成による実践的な指導と、理論や知識を系統的に学ぶ講義科目を組み合わせたカリキュラムを通して、プロの演劇人や演奏家、生涯にわたり演劇や音楽を楽しむ教養人を育てました。

中高部では、実践や経験を通して自ら体で感じながら知識や感性を高めることを重視し、生徒が主体的に行動する中で、過程から学びを得る教育を実践し、創造力あふれる人間の育成をすすめました。

初等部では、2025年度に創立70周年を迎え、創立時からの歩みを振り返るとともに、命を大切にする幸せな世界と地球を大切にする平和な世界の実現を願い、地球の未来を考える地球市民としての意識を新たにしました。

女子部門における最重要課題は、志願者の安定的確保です。

短大部においては、とりわけ演劇専攻の定員充足を喫緊の課題と位置づけ、2025年度より新たに「声優コース」を設置しました。本コースは、俳優教育を基盤とした声優人材の育成を目的とし、演技力・表現力を中核とした教育課程として整備しました。演劇専攻は「ストレート」「ミュージカル」「声優」の3コースの構成ですが、1年次は全学生が俳優教育の基礎を共通履修し、2年次から各コース独自のカリキュラムを学びます。これにより、従来の俳優養成に加え、声優分野への進路志向を持つ志願者層の新規開拓を図り、志願者数および定員充足率の向上を目指します。2026年度より、実質的な声優専門課程としてのカリキュラムが開始となりました。

短大部では、志願者確保に向けた取り組みとして、2025年度も「演劇専攻全国ワークショップ」を実施しました。本取り組みは、高校演劇部を対象に、本学教員が現地を訪問し、演技レッスンを中心とした実践的なワークショップを行うものであり、長崎県、広島県など複数地域からの依頼を受けて実施しました。

各校においては演技指導に対する評価も高く、参加生徒および顧問教員から好評を得るとともに、演劇部顧問との関係構築を進めることができました。今後は本取り組みを継続的かつ体系的に展開し、地方高校との接点強化を通じて、演劇専攻への志願者増加につなげていきます。

また、音楽専攻においては、在学生の約8割を社会人学生が占めており、従来の高校訪問中心の募集活動では十分に対応できていない状況でした。このため、今後は社会人オーケストラ、吹奏楽団、合唱団体等へのアプローチを強化し、本学の認知拡大および志願者層の多様化を図ります。

中高部では、T-Projectの完成年度を迎え、東京私立中学高等学校協会の研究協力校発表会において成果を発表しました。また、自習室スタディールームを整備し、生徒の放課後学習の充実を図りました。

海外研修プログラムについても充実を図り、7月から9月にかけて2か月以上実施するニュージーランド・ターム留学と、夏休みに約10日間実施する豪州・シンガポール研修の2種類を用意しました。生徒はそれぞれの目的に応じて参加し、いずれも貴重な経験を得ることができました。

また、2025年度には中学生を対象とした海外研修制度の導入を決定し、ベトナム研修が2026年度に初年度を迎えました。

2025年度入学生においては、目標値である170名以上（175名）の入学者を確保しましたが、2026年度入試では入学者数が減少し、137名となりました。女子部門としてはこの状況を重く受け止め、生徒確保を最重要課題と位置づけ、広報戦略および入試改革を進めていきます。

初等部においては、2024年度に比べ女兒志願者は減少となりましたが、小学校および幼稚園の募集状況は安定しています。

部門全体の構想として、継続審議中である八ヶ岳高原寮の将来構想については、女子部門運営審議会の提案を基に教職員から広く意見聴取を実施しました。八ヶ岳高原寮は女子部門にとって教育的価値および歴史的意義を有する重要な施設であり、その位置づけを踏まえた検討を進めました。

2026年度は、利用状況、維持管理コスト、教育的活用の可能性等を多角的に検証し、2028年度までに一定の方向性を決定することとしました。

また、女子部門全体に係る大規模改修計画については、現状の財務状況を踏まえ、財務改善を最優先課題とした上で再検討する方針としました。このため、2025年度期中においては計画を一旦見直し、各部門に予算上限を設定した上で、必要性の高い箇所から順次、小規模改修を実施することとしました。

②2025年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園芸術短期大学

事業名 教育の質保証

概要

2025年度の短大部会議では昨年度の教学マネジメント会議体に短大将来構想委員会、芸術科
学科会議を統合したことにより、必要事項の共有や連携をスムーズに行うことができた。次年
度以降も引き続き教育改革に取り組む。適切な学習成果の査定のため、短期大学生調査結果を
活用し、建学の精神、教育目的の定期的点検と三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、
カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）、学習成果、アセスメント・ポリシーの定
期的点検を実施した。アセスメント・ポリシーに基づくPDCAサイクルの活用と法令遵守（コン
プライアンス）の徹底、単位の実質化の徹底、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに基
づく体系的・順次的学習の促進、また専門科目の定期的点検、教養科目の定期的点検を行い、
学位取得率の維持・向上を引き続き図る。シラバス電子化は「講義概要」部分の電子化を進め
た。また、演奏会、発表会、試演会、卒業公演、修了公演等による学内外への学習成果の積極
的公表に取り組んだ。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）の活性化を推進し、「学生による授業評価アン
ケート」の活用、FD研修会への出席率の向上、講師説明会への出席率の向上を図る。今年度
は、授業評価アンケートの結果を活用し、2026年度に向けて教育課程の一部変更を行った。

また、授業の達成度88.9%、満足度94.7%と高い結果を得ており、本学で編成しているカリ
キュラムマップおよびカリキュラムツリーが、学習成果の獲得において機能しているものと考
えられる。今後も引き続き、三つの方針および学習成果の改善に向けた検討を進める。

他大学との連携強化については、桐朋学園大学との単位互換制度の推進、東京演劇大学連盟
との連携事業の展開、俳優教育システム研究会との連携事業の展開、JUCA全国芸術系大学コン
ソーシアム等との連携を図る。

自己点検評価の充実のため、短期大学生調査の結果の活用、自己点検・評価報告書のホーム
ページでの定期的公表、内部質保証ルーブリックの活用、高等学校関係者等の意見聴取、認証
評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認を行う。

進捗状況等

2019年度より一般財団法人大学・短期大学基準協会が年に1回実施する短期大学生調査に参
加し、学習成果の査定に活用した。建学の精神と教育目的が、時代・社会のニーズと結びつい
ているかについては、原則5年ごとに点検を行う。

2025年度は短期大学調査、授業評価アンケートの結果に基づき教育課程の改善を行った。

アセスメント・ポリシーに基づきPDCAサイクルを活用し、自己点検・評価活動を行い、課題
と改善計画を明確にした。学校教育法、短期大学設置基準等の法令の遵守に努め、適正な授業
回数の確保に努めた。履修登録単位数の上限を定めるCAP制について規程の整備を行い、2024年
度より学則に明記することとした。

学位取得率に関して、芸術科は在籍者の90%以上が短期大学士を、専攻科は大学改革支援・
学位授与機構への申請者の90%以上が学士を取得することをめざしており、2025年度は76.5%
（音楽55.6%、演劇100%）の取得率であった。

FD研修会（7月23日、12月12日開催）、講師説明会は、当日出席できない教員にオンデマンド
で視聴できるよう、出席率向上のための対策を行った。

桐朋学園大学との単位互換では、短大生58名、音楽学部生27名の単位互換希望があり、ほぼ
希望通りの履修が認められた。2025年度の短大部の主なトピックとしては、演劇専攻の海外公
演APB（Asia-Pacific-Bureau）学生演劇祭への参加予定であったが、諸般の事情により参加を
辞退し、代替公演として韓国ソウル市の「音と光のアートホール」での公演を実施し、盛会の
うちに終了した。

その他の学内及び学内行事においては、いずれも予定通り開催された。

短期大学生調査結果を分析し、自己点検・評価報告書に反映するとともに、大学・短期大学
基準協会による内部質保証ルーブリックを活用し、自己点検・評価活動を行っている。

認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認は、自己点検・評価委員会を
中心に進捗状況を確認している。教育情報の公表は、日本私立短期大学協会ガバナンス・コー
ドに基づいて公開しているが、経年比較可能な形で公表されていない部分については見直しを
継続して行った。

事業名 学生募集—入試志願者の安定的確保

概要

アドミッション・ポリシーに基づく学生募集を推進し、芸術科入学定員の学生数確保及び専
攻科入学定員の学生数確保に努める。オープンキャンパス等への参加者数増加に向けた工夫を
図るとともに、ウェブ出願に関する具体的検討も引き続き検討する。広報活動の強化に向け
て、ホームページの活用、SNSの活用、活躍する卒業生・在学生の紹介に取り組む。

進捗状況等

2025年度の入学者数は、芸術科が入学定員（120名）に対し、音楽専攻35名、演劇専攻63名であり、入学定員充足率は81.7%であった。専攻科は入学定員（各専攻20名）に対し、音楽専攻12名、演劇専攻20名であり、入学定員充足率は80%となり、大きく改善した。

オープンキャンパス等への参加者数は、コロナ禍期間より増加しているが、コロナ禍以前に設定した評価指標を下回っている。

演劇専攻は、この数年の検討事項であった声優コースの導入を決定し、2025年度にその入学生を迎えた。

また、コロナ禍により分断され中止を余儀なくされた演劇専攻フェロー入試（フェロー制度）については、演劇専攻総合型B入試の指導者推薦の中に組み入れ、引き続き演劇専攻フェロー推薦者からの入学生増を図る。

学生獲得とフェロー制度の再構築も含めて、2024年度から2025年度にかけて全国各地（北海道、千葉、静岡、香川、長崎、広島、東京）の高校で演劇ワークショップを実施した（2025年度は長崎、広島、東京）。音楽専攻は社会人の受け入れを増やす試みとして、新たな履修証明プログラムの導入やオープンキャンパス等で長期履修制度の周知を行った。

広報活動に関しては、「本学を知ったきっかけ」はホームページが最多であり、リニューアルしたホームページのイベントレポート等の更新など、より効果的な運用を進めた。また、Twitter、Facebook、LINE、Instagram等でも情報を発信した。本学の教育目的を明確に示すためにも、卒業生・在学生の活躍を積極的に紹介し、インタビュー記事のホームページ掲載も開始した。

事業名 将来構想

概要

短期大学将来構想の策定を図るため、芸術教育の将来像の検討を行うとともに、人事計画案、財務（事業活動収支）計画案、施設、設備の整備案の検討に取り組み、将来構想実現に向けた準備を始める。

進捗状況等

将来構想委員会を中心に、短大の将来構想を検討している。短大の将来のあり方を見据え、適切な定員管理とそれに見合った経費に基づく財務（事業活動収支）計画案の検討も進んでいる。施設・設備の整備に関しては、2025年度、校舎の改築計画が一度立ち止まる決定がなされたが、各部の小改修は実施することとなっており、短大部は将来構想を念頭に置いた第5実習室の改築を決定した。

2025年度は、短大の演劇学部構想を含めた将来構想の実現に向けて複数回会議が開催され、演劇学部の具体について様々な検討および協議が行われた。

○桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

事業名 新教育課程の全面実施、女子中高の特性を活かした教育の展開

概要

新教育課程2年目を迎え、正課のプログラムはもちろん、課外活動も含めて、女子中高の特色を活かした教育を展開する。

- ① Bブロック（中3・高1）に設置した「T-project」を中心に、探究型学習を推進する。
- ② 国語科の段階を追った表現指導、外国語科の四技能育成、各教科の「書く」課題などを通して、ことばの力を育てる。
- ③ 発表学習や学び合いを通して、伝え合う力、他者の意見を尊重し自分の考えを深める姿勢を育てる。
- ④ 生徒が中心となって企画・運営する学校行事、生徒会活動や部活動を通して、主体性や協働性を育む。

進捗状況等

中学・高校ともに、新教育課程2年目を迎えた。探究型学習である「T-Project」が中3・高1の2学年で実施されるのも2年目となった。中3前期は、東北研修旅行を題材に、個人でテーマを決めて現地で見聞したことを新聞にまとめ、後期はグループ研究を行い、発表をした。高1は、一年を通して個人の探究活動に取り組み、プレゼンテーションボードにまとめて発表した。上の学年の経験を踏まえ、計画的に進めることができ、期待通りの調査結果が得られない場合も、試行錯誤する経験を積むことができた。一年間における時間配当の難しさ、担当教員の負担の大きさが課題である。

事業名 進路指導の充実

概要

新学習指導要領のもとでの2年目の大学入試を迎え、生徒一人一人の志望を尊重した進路指導を行う。

- ① 各教科で大学入学共通テストの変更に対応した指導を行う。
- ② 進路指導部で大学説明会、出張授業など、生徒が自分の進路に向き合う機会を設ける。
- ③ 英語外部検定の受検を促進する。
- ④ 総合型選抜や学校推薦型選抜の枠の増加に対応し、志望理由書作成や面接の個別指導を行う。
- ⑤ 校内での学習環境を整備する。

進捗状況等

進路指導部では、前年度同様に、高1～高3を対象として、進路説明会、大学説明会、大学教員の出張授業、分野別大学進学セミナー、キャンパス訪問、長期休業中の受験対策講座などを企画した。また、新規の科目履修制度や高校生への大学図書館の開放など、高大連携の充実も図った。校内の図書館を活用した放課後自習室も軌道に乗っている。併願可の総合型選抜、学校推薦型選抜に出願する人が増え、志望理由書作成の指導や面接の練習などを個別に行った。年内に進路が決定する生徒が多い中、一般選抜の受験者が前年度に比べて増え、全体的に難関大学合格者数が増えた。国立大学合格者数も前年度より増え、久しぶりに京都大学合格者が出た（2名）。今後も、志を貫いて最後まで粘り強く取り組む生徒をしっかりサポートしていきたい。

事業名 ICT機器の活用と危険性の認識

概要

生徒一人一台持たせるタブレット端末の活用を推進するとともに、便利な面の裏面に潜む危険性についての認識を持たせる。

- ① 生徒一人一台タブレット端末を持たせ、授業にとどまらずさまざまな面で活用させる。
- ② ICTリテラシー、メディアリテラシーを学び、正しい情報を見極めてモラルを守って発信する力を育成する。

進捗状況等

前年度に引き続き、中学高校の全生徒にタブレット端末を持たせた。様々な教科の授業で活用されており、生徒たちは授業以外にも、調べごと、生徒会活動、部活動、連絡手段など、あらゆる場面で自主的に活用している。2022年度から始めたオンライン英会話も、生徒と教員のスキルが共に向上し、順調に進めることができた。また、これは保護者が活用するものであるが、2023年度から導入した出欠のオンライン連絡も軌道に乗っている。一方で、生徒がタブレット端末を壊すことが多いことと、業者の対応が遅いことが課題である。

事業名 海外研修プログラムの充実

概要

世界に触れる経験を多くの生徒に用意する。

- ① ニュージーランド・ターム留学の実施。
- ② 豪州・シンガポール研修の実施。

進捗状況等

7月から9月まで2か月以上かけて行うニュージーランド・ターム留学、夏休みに10日余りで行う豪州・シンガポール研修という二種類の海外研修プログラムを用意し、希望する生徒がそれぞれの目的に応じて参加した。どの生徒も貴重な経験をする事ができた。

さらに、中学生を対象とした海外研修制度の導入を検討し、2026年度よりベトナム研修を行うことが決定した。

事業名 危機管理対応の充実

概要

非常時、災害時の対応についてマニュアルの再確認をし、生徒も含めて意識を高める。

- ① 食物アレルギー発症等、救急時の対応の仕方を学ぶ。
- ② 校内で避難訓練を実施する。
- ③ 事務局と連携し、消防機器の操作を学ぶ。

進捗状況等

年度当初に、教職員を対象に、エピペンの使い方、AEDの使い方の研修を実施し、食物アレルギーの対応の仕方、救急車の呼び方、嘔吐時の対応について、改めてマニュアルを確認した。生徒を対象としたものとしては、年度初めのオリエンテーション期間に大規模災害時を想定した通学地区別顔合わせを実施し、例年通り年に2回の避難訓練を実施した。

事業名 安定的な収入の確保

概要

入学試験応募者の安定的確保を目指すとともに、在校生の保護者に、基金・寄付への協力を積極的に求める。

- ① 学校説明会・学校案内パンフレット・ホームページの充実を図る。
- ② 中学入試・高校入試の応募者を増やすための改定を施す。
- ③ 公立中学校および塾を対象とした広報活動を充実させる。
- ④ 寄付金への協力をこれまでより積極的に呼び掛ける。

進捗状況等

学校説明会の開催、校外での説明会・相談会への参加、中学校回りや塾回り等を例年と同様に行ったが、中学への応募者が大幅に減少し、歩留まりも悪かった。2026年度は広報に注力し、応募者数の回復を目指す。学校説明会の工夫や塾への働きかけなど、改善の余地があるところを徹底的に改善する予定である。2026年度中学入試では日程を一部変更したが、これも裏目に出たと考えられるため、2027年度は元に戻す予定である。高校の応募者も推薦制度の条件緩和をしたわりには増えなかったため、外回りの広報活動をこれまで以上に意欲的に行う予定である。なお、寄付については、前年度に倣い、4月に6学年すべての保護者会で説明し、協力を呼び掛けた。

○桐朋小学校

事業名 教育の改革と質の保証

概要

- ① 2020年度より創設した「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語）について、研究の柱において実践、研究をすすめる。外国語に関しては、外国語科の講師と授業研究を行い、2010年度より実施している少人数（1学級を2分割した 18名）の外国語のカリキュラムを充実させる。
「地球市民の時間」では、子どもたちが世界の平和や持続可能な未来のために考え、現在と未来を地球市民として行動できるよう、根っこを育てる。中学年、高学年で、外部講師や外部機関とも共同し、授業研究を実施する。
- ② 2025年度、創立70周年に向けて、これまでの10年間の教育を振り返り、上記①の点も含め、新学校案内を作成する。2025年度（創立70周年）には、その実践を広く社会に周知することを推進する。

進捗状況等

- ① 「地球市民の時間」について、2020年以降の実践を振り返り、これまでの取り組みをまとめた。学内研究授業を充実させた。そのまとめを新学校案内の内容に反映させ、応募者などに配布した。外国語に関して、実践、研究をすすめ、カリキュラムの充実をはかった。
- ② 2015年（創立60年）以降の教育を総括し、教育目標、目標を実現するための柱の見直し、教科教育、総合、自治の3領域の実践、研究のまとめなどを新学校案内に反映させ、実践を充実させた。

事業名 将来構想

概要

2025年（創立70周年）を目安に、目指す教育と子どもの育ち、1学級の児童数、学級数、教職員数などの学校規模、財務の見通しをつなげて、将来構想を立案する。

進捗状況等

少子化、人口動態を捉え、目指す教育と子どもの育ち、学校規模、財務の見通しを複数回検討し、計画を立てた。また、放課後の子どもの実態を把握し、学童保育について検討をした。

事業名 施設・設備の拡充

概要

- ① 女子部門全体にわたる校舎の大規模改修計画は、2024年度内に各校舎の建築・改修の基本計画を立案し、2026年度末までに具体的なスケジュールを構築する。
- ② 女子部門が持っている八ヶ岳高原寮の将来構想を立案、決定する予定だったが、継続審議となった。
- ③ LED化や書類の電子化を進め、省エネルギー・省資源化に取り組むとともに、光熱水費、消耗品費等の経費削減を図る。LED化については全体の2割程度が実現し、2028年度末までに更に2割程度の実現を図る。

進捗状況等

- ① 大規模改修計画は、部門の財務の厳しさ、建築費用の高騰、借入の利息金利の上昇などがあり、2025年度、中止となった。園児、児童、生徒、学生の安全のため、必要な修繕をすすめることに変更をした。初等部の小規模改修工事を計画し、2026年度に実施する。
- ② 八ヶ岳高原寮の将来構想に関して、2025年度審議したが、結論を出すことができず、継続課題となった。小学校では、これまでの八ヶ岳合宿活動を総括し、かけがえのない施設とその周辺の環境を活用しての教育活動の充実をはかった。
- ③ LED化をすすめ、省エネルギー化に取り組んだ。

事業名 安定的な収入の確保

概要

- ① 魅力ある教育と広報活動に力を入れ、応募者の増加を目指す。小学校では、初等部の強みである幼小の連携をすすめ、確実に入学者を確保し、外部むけの対面での説明会や学校体験会の充実を図る。
- ② 寄付金の募集拡大など、積極的な外部資金の獲得を図る。具体的には、校舎改修のスケジュールに合わせた形で2026年度末までに改修のための寄付金を創設する。

進捗状況等

- ① 2024年度に比べ、志願者は微減となったが、安定した状況である。今後も安定した状況を維持するため、魅力ある教育を行い、女児の応募者を増やす取り組みに力を入れる。3月、この時期に実施するのは初めてのしぜんひろば体験会を行い、女児の応募者枠を増やし、満員となる参加者であった。
- ② 入学時の環境整備寄付金は目標額に達した。在学生の寄付の増加を目指したが、取り組みをすすめることができなかった。小規模改修のための寄付について、見通しを立て、実施する方向で検討をすすめた。

○桐朋幼稚園

事業名 教育の改革と質の保証

概要

- ① 2018年度より3年保育を開始し、保育実践と研究をすすめてきた。外部講師との共同研究を継続して実施してきた。2024年度、これまでの取り組みを総括し、2025年度、3年保育の実践と研究を反映させた園案内を作成する。そして、2025年度（創立70周年）には、その実践を広く社会に周知することを推進する。
- ② 初等部の強みである幼小連携を強化し、共生、共同の場所である畑の周辺、「しぜんひろば」での活動を充実させる。

進捗状況等

- ① 2018年度からはじめた3年保育を総括し、成果と課題をまとめ、新園案内、新初等部ブックレットにまとめた。新園案内は見学会や説明会で配布し、新初等部ブックレットを普及した。
- ② 幼小連携として、しぜんひろばや畑周辺での共生、共同を進めた。幼小で共同研究を行った。成果を2025年に発行する新園案内に反映させ、2025年11月に刊行した初等部ブックレットにまとめた。

事業名 将来構想

概要

- ① 2025年（創立70周年）を目安に、1学年、1クラスの子どもの数、教職員数など学校規模、財務の見通しを検討し、将来構想を立案する
- ② 2022年度よりはじめた預かり保育の拡充をすすめる。2023年度は預かり保育の子どもの数（最大14名を21名）、指導員の数（2名を3名）を増やした。2024年度は預かり保育時間を毎日1時間延長した。2024年度末までに早朝預かり保育、長期休み期間の預かり保育などを検討し、必要な人手を確保する。

進捗状況等

- ① 少子化、人口動態を捉え、目指す保育、教育と子どもの育ち、園の規模と財務見通しを検討し、継続課題となった。
- ② 預かり保育は、希望者が多くおり、安定してすすめられた。早朝預かり保育、長期休み期間の預かり保育の検討をすすめた。

事業名 施設・設備の拡充

概要

- ① 女子部門全体にわたる校舎の大規模改修計画は、2024年度内に各校舎の建築・改修の基本計画を立案し、2026年度末までに具体的なスケジュールを構築する。
- ② 女子部門内各施設のLED化や書類の電子化を進め、省エネルギー・省資源化に取り組むとともに、光熱水費、消耗品費等の経費削減を図る。LED化については全体の2割程度が実現し、2028年度末までに更に2割程度の実現を図る。

進捗状況等

- ① 大規模改修計画は、部門の財務の厳しさ、建築費用の高騰、借入の利息金利の上昇などがあり、2025年度、中止となった。園児、児童、生徒、学生の安全のため、必要な修繕をすすめることに変更した。初等部の小規模改修工事を計画し、2026年度に実施する。
- ② 女子部門内各施設等のLED化を進め、省エネルギー・省資源化に取り組むことができた。

事業名 安定的な収入の確保

概要

- ① 入園試験の応募者数増加を目指し、説明会を充実させ、男女ともに受験者を増加させる。小学校との連携を進め、志願者確保をすすめる。
- ② 入園時の環境整備寄付金の増額、在園児家庭に対して寄付金の募集拡大など積極的な資金の獲得を図る。園舎改修のスケジュールに合わせた形で2026年度末までに改修のための寄付金を創設する予定である。

進捗状況等

- ① 志願者数増加を目指し、説明会や体験会を充実させ、広報に力を入れた。男子は増加し、女子は減少した。体験会や見学会など、女子の応募者人数を多くする。そこで保育の充実を伝え、志願者を確保する。また、小学校との連携をさらに進め、広報を充実させ、志願者確保をすすめる。
- ② 入園時の環境整備寄付金の目標額に達した。在園の家庭に対して寄付金の募集拡大など積極的な資金の獲得を図ろうとしたが、すすまなかった。園舎の小規模改修のための寄付金を創設することをすすめた。

○事務局（管理運営）

事業名 安定した財務基盤の構築

概要

物品購入の集約化一元化、外部委託の導入、ICTの活用による業務改善及び事務業務の効率化、LEDなどの環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の節減等により管理経費の健全化を図る。

学生納付金は、入学定員の確保や社会情勢、部門の収支状況等を勘案した適切な金額を設定し、安定した収入の確保に努める。

短期大学においては国・政府系機関の競争的資金(補助金)の獲得、高校以下においては東京都等の各種助成の活用、部門全体では寄付金の募集拡大など積極的な外部資金の獲得を図る。そのための組織体制の構築についても検討する。

進捗状況等

環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の節減等を図るため、学内のLED化を引き続き進めた。物品購入の集約化一元化、外部委託の導入、ICTの活用による業務改善及び事務業務の効率化についてはある一定の水準に到達しているため、今後も研究が必要である。

学生・生徒募集は厳しい状況が続いている。より多くの補助金や寄付金の獲得が求められるため、学園全体で引き続きそれらの獲得に努めた。私立高校授業料軽減助成金は、2024年度より年収目安の上限が撤廃され、2025年度も前年度並みの増額となった。また、2024年度新規獲得のDXハイスクール補助金、防災用品整備助成金（幼・小）、木育活動支援事業費補助金（幼）について、2025年度はDXハイスクール補助金が継続獲得、防災用品整備助成金は（中学校）について獲得することができた。そして、この数年、精力的に取り組んできた東京都経常費補助金の特別補助（安全対応能力向上の取組、事故対応能力向上の取組、体験学習等特色ある教育の取組）では、2025年度にほぼ上限額まで獲得することができた。

事業名 人材育成・人材活用

概要

事務局の効率的な業務運営を前提とした専任職員、定年後の再任用職員、嘱託職員及び定時職員、派遣職員の配置を行うとともに、外部人材の登用などの可能性も含め、各学校の目的達成のための人員体制を整備する。

職員に必要な教育研究活動支援等の知識及び技能習得や、職員の能力及び資質を向上させるためのSD（Staff Development）活動などの研修を実施する。

事務処理の簡素化、外部委託の活用、情報化の推進等によって効率化・合理化を図るとともに、業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。

進捗状況等

施設設備管理業務は全般を経理課、行事関係は学務課、短大教学課も従前通り全体的な管財業務を担うという態勢を取った。全体的には特に大きな問題はなく機能したと考える。また、短期大学と共催のFD・SD研修会には多くの職員が参加した。

2022年度より施設設備管理業務の一部及び施設設備点検作業を外注し、効率化が図られた。2023年度から総務課へICT業務を位置付けたことにより、ICTの専門知識のある派遣職員の雇用を図った。この2例のように専門性の必要な業務については外注しその機能を高めると共に、外注した結果発生するマンパワーを事務局のコア業務に注力することで、業務の合理化・効率化を目指したいと考える。並行し、施設設備管理業務については、収支改善の一つとして当業務の見直しの議論も始まった。

また、配置を目指していた財務課については、2026年度より実現することとなった。

事業名 施設設備の整備・拡充

概要

良好な教育環境が保持されるよう既存施設の適切な維持・管理を行う。

施設設備の整備・更新にあたっては、学科の改編や入学定員や教職員数の見直しなどを考慮した中長期的な整備計画を策定する。

学内ネットワークシステムや事務局管理の各種システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。

進捗状況等

2025年度から2028年度にかけて校舎の修繕及び小規模改修を行うことが決まり、各校の改修費用の上限額も周知された。

セキュリティに関し、情報関係委員会を中心に検討している。セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られているが、学内における体系的な情報セキュリティ体制について引き続き検討の必要がある。

事業名 ガバナンス体制の整備

概要

私学関連の各種法令やガイドライン等の見直しを行い、事務局すべての部署・職員間で法令遵守の徹底を図る。

逸脱や漏れを防ぐためのチェック体制を事務局全体で構築し、内部統制機能の充実を図る。

定期健康診断やストレスチェックの結果が教職員の健康管理に適切に生かされるよう衛生委員会、産業医、カウンセラー、保健室と協力して対処する体制を整える。

「学校法人桐朋学園個人情報保護方針」等を遵守し、個人情報安全かつ適正に管理・運用するとともに、Webサイト及び学内情報システムの安全性確保を徹底する。

各種ハラスメントを防止や労働環境改善のための研修等も積極的に実施する。

進捗状況等

業務遂行においては、事務局すべての部署・職員間で法令遵守の徹底を図っている。チェック体制など内部統制機能についても都度検証・見直しを図っている。

2022年度より新規に契約した産業医を迎え、新たな衛生管理体制も定着してきた。産業医への教職員の面談申し込みが多い状態が続いている。

セキュリティに関し、情報関係委員会を中心に検討している。セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られているが、学内における体系的な情報セキュリティ体制について引き続き検討の必要がある。

(4) 音楽部門

①2025年度の事業の概要

2025年度は、本学の強みである高い教育水準を維持しながら、将来を見据えた運営上の優先課題への対応を並行して進めた一年でした。日常の教育活動においては、教員の指導力を背景に教育の質は安定しており、各種コンクール等でも受賞者を多く輩出しています。上位一定層からの継続的な支持も得られており、教育面の基盤は堅調です。また、教員体制は幅広い年齢層を網羅し、経験豊かな教員に加えて、実力ある若手教員も指導にあたり、教育の継続性と発展性の双方を備えています。

こうした基盤のもと、まず退職者が複数見込まれる状況を踏まえ、世代交代に向けた準備を開始するとともに、学生生徒数の減少傾向を踏まえた収支バランスの観点から、採用・人員配置の検討を進めました。加えて、年度途中に音楽教室事業の収支状況について課題が明確になったことから、実態把握と課題整理を急ぎ、早急に対策を要する事項については音楽教室運営委員会を中心に検討を開始いたしました。

これらの取組は、授業運営、演奏機会の確保、学修支援、FD/SD等の教育活動と同時並行で推進したものであり、教育の質を高い水準で維持することを前提に、組織運営上の論点を可視化し、次年度以降の改善に繋げるための基盤づくりとして位置付けております。

また、学部においてはミュージコロジーやMSD (Music and Sound Design) など新たな領域の教育を展開し、教育内容の多様化と発展を図りました。一方で、学生確保の観点では、今後の伸長に向けて工夫の余地があることも確認できました。

2026年度は、2025年度からの課題対応（世代交代の準備、収支バランスを踏まえた採用・配置、音楽教室に関する検討）の取組を継続しつつ、学部・大学院の新領域をより確実に定着させるための方策を強化いたします。具体的には、学外者からの助言も得ながら新たな領域の可能性を模索するとともに、学内の他部門との協力を一層進め、教育・研究活動の展開と学生確保の両立を重点目標として取り組みます。

②2025年度の子な事業計画及びその進捗状況

○教育（桐朋学園大学音楽学部・同大学院）

事業名 質の高い教育の維持(質保証)

【概要】

- ・教育課程の点検と改善
- ・評価・可視化の基盤整備（教学システム／ポートフォリオ）
- ・高度な学修機会の確保（マスタークラス等）

【進捗状況等】

未開講科目の整理を行い、科目名変更（2講座）および新設（2講座：リトミック演習、即興ソルフェージュ）を実施した。高校から大学への学修移行を円滑にするため、冬期講習参加、卒業試験・演奏会聴講、図書館利用等の入学前教育プログラムを整備した。また、「編作コース」を次年度より「MSD (Music and Sound Design)」へ名称変更することを決定し、他大学との共同制作や大学院生との協働による教育実践を行った。外部評価に向けた準備を開始し、内容変更を行った専攻を中心に3ポリシーの整合性を確認した。

教学システムを活用した評価システム構築は、教務チームの業務整理を優先したため今年度は見送り、次年度以降の取組とした。一方、学修ポートフォリオは自己点検評価委員会の重点点検項目とし、教務委員会を中心に導入準備（目的・要件整理）に着手した。

マスタークラスは22回実施し、サマー・アカデミー参加者は約200名であった。多様な専門性に触れる機会として、学生の学びを刺激する場を提供した。

事業名 学生確保に向けた教育の開拓・発信

【概要】

- (学部) 体験機会の提供と広報活動の継続
入試実施体制の点検
音楽教室連携（体験レッスン／特別授業）
- (大学院) 留学生支援体制の整備開始
新領域の設置と次期領域の検討

【進捗状況等】

(学部)
指定校を中心に出張授業・出張レッスンを開始し（10校）、特にソルフェージュ授業の希望が多く好評を得た。来校型の学校説明会は4回実施し、6月8日の「音大フェア」では本学ブース来訪31名に個別相談対応を行った。体験機会として、声楽（無料5回）や管楽器（ジュニアウィンド参加延べ46名）を実施し、カワイ体験レッスン（1回）も行った。

総合型選抜A日程および外国人留学生入学試験は、合格者数・入学手続者数とも概ね昨年度と同等であった。一般入試の遠隔方式は、受験動向・技術的課題等を踏まえ、今年度で廃止することを決定した。 大学教員による音楽教室での特別授業を年間29回実施し、多様な専攻分野の教員が各地の教室で指導を行った。教室の実情や受講生の段階に応じた内容とすることで質の高いレッスンを実施できた一方、教室規模や地理的条件の制約により、一部の地方小規模教室では十分に提供できていないことが課題として整理された。 (大学院) 2026年度入試では学部1名、大学院16名の留学生入学が予定されている。4月に留学生相談窓口を設けましたが、担当者が年度途中で帰国したため、その後の補充には至っていない。 修士課程「MSD」は合格者10名（入学予定者8名）であった。今年度は新領域「ソルフェージュ教育法」を設置し、1名が合格した。さらにスタジオ完成を受け、録音分野の新領域（2027年度開設目標）の検討を開始し、カリキュラム設計および担当体制整備に着手した。

○教育（桐朋女子高等学校音楽科）

事業名 質の高い教育の維持(質保証)
【概要】
・新教育課程の実施と検証
【進捗状況等】
新教育課程として、「ピアノ初見」を全学年必修に拡大し、段階的な教材・指導で初見力の育成を図った。「スコアリーディング」は高大連携授業として開設し、高校生と大学生が同一環境で学んだ。英語は高3で一部選択制を導入し、学習ニーズに応じた学びを整備した。

事業名 生徒確保に向けた教育の開拓・発信
【概要】
・学校説明会・見学会の充実（高大連携を含む）
【進捗状況等】
オープンキャンパスを高大共催で開催し、高校プログラムには約150名が参加した。在校生による室内楽演奏・インタビューや個別相談会を実施した。加えて、音楽教室生向け授業見学会（約35組・60名強）を行い、授業見学、弦楽オーケストラ体験（希望制）、個別相談等を実施した。

○教育（桐朋学園大学附属子供のための音楽教室）

事業名 質の高い教育の維持(質保証)
【概要】
・質保証の課題把握／教員交流の準備
【進捗状況等】
教室網が広範なため本部から実情把握が難しく、情報共有・連絡体制に改善余地があることが明確となった。各教室の実情を可視化し、共通理解のもとで質を維持・向上する体制整備が必要であることを確認した。あわせて全国27教室の担当者が集う音楽教室シンポジウム（テーマ：初期教育におけるソルフェージュと実技教育の可能性）を実施した。

○教育（桐朋学園大学院大学）

事業名 質の高い教育の維持(質保証)
【概要】
・PDCAの点検・改善の強化
【進捗状況等】
学生アンケートは委員会で設問を精査し、運用上の問題がないことを確認した。授業評価アンケート結果は、専任教員は会議体で共有し、非常勤・特任には集計結果を送付して次年度改善を促した。Actionとして、市内在住の専任教員2名の採用を決定し、次年度からの体制を整えた。ポートフォリオ（学習成果可視化）の検討も継続した。

事業名 学生確保に向けた教育の開拓・発信
【概要】
・教育実践の発信（SNS・動画）
【進捗状況等】
富山キャンパスの公式Instagramを開設し、HP動画を随時更新した。コンチェルト実習、室内楽コンサート、在学生・修了生インタビュー、寮紹介等の動画を制作・公開した。

○人事

事業名 組織運営の基盤整備

【概要】
・適正人員数の検討 ・事務局体制（定年延長／既存体制の点検） ・研修（SD／FD）

【進捗状況等】
今後、退職者が多数となることを見据え、将来の収支バランスを踏まえた運営可能な採用数（適正人員数）の見積もりを行い、関係者間で共有・確認した。あわせて次年度以降も教育の質を維持できる体制のあり方について、具体的な検討に着手した。職員は定年退職者を中心に計画的な引継ぎを行い、属人的業務の複数名対応化を意識して業務継承を進めた。 専任事務職員の業務分掌・意思決定の流れ・連携状況を点検し、現行体制の課題と改善余地を整理のうえ、チームリーダー会議で検討を行った。 SDとして7月にアクセシビリティ支援をテーマに研修会を実施し、学生支援の現状共有と職員の理解促進を図った。FD等では、実技系の公開レッスン等を通じた指導改善、音楽学専攻の合同ゼミ研究発表による相互批判を通じて教育・研究水準の向上を推進した。

○財務

事業名 適正な収支バランス

【概要】
・経常費補助金の維持 ・寄付金確保 ・音楽教室（収支見通し／データベース整備）

【進捗状況等】
私立大学等経常費補助金は、大学定員数の見直しにより増減率のマイナスが緩和された。あわせて公募要件を精査し、採択可能性が高い事業へ新規応募を行った結果、前年度比で一定の増額を確保し、約4億4,400万円の見込みとなった。 奨学金給付を目的とした多額の寄付を受け入れ、約4,000万円規模を確保した。学生支援の充実という観点から大きな成果となった。加えて、スタジオ工事に係る施設設備整備を目的とした寄付として約5,000万円を受け入れ、教育環境の整備に向けた財源を確保した。 各教室の生徒数推移等を検証した結果、生徒数減少により収支差額はマイナスとなり、残念ながら累積赤字の解消に至らず赤字が拡大した。これを踏まえ運営方針の検討に着手するとともに、生徒情報の整理・活用が不十分であるため、生徒数増加に資するデータベース整備・活用の検討を進めた。

○施設設備

事業名 校舎補修・メンテナンス

【概要】
・スタジオ運営の点検・改善

【進捗状況等】
調布キャンパスの一部校舎を改修し、新たに録音スタジオを整備して運用を開始した。運用開始後の利用状況と課題の把握を主眼に、設備・運用両面の点検を進めるとともに、通信インフラ整備の検討に着手した。

4 その他

(1) 施設設備

①男子部門

○ 小学校体育倉庫改修工事

- ・工事概要 老朽化した倉庫の建て替え工事を行った。
- ・工事費用 11,550,000円
- ・施工業者 立川ハウス工業株式会社
- ・工事期間 2025年7月10日～9月16日

○ 中高LED照明交換工事

- ・工事概要 中高ホームルーム教室、食堂等の照明器具をLEDに交換した。
- ・工事費用 29,997,000円
- ・施工業者 株式会社エコ・プラン
- ・工事期間 2025年8月1日～8月29日

○ 中高図書館PCリプレイス

- ・工事概要 図書館の検索用PCをリプレイスした。
- ・工事費用 3,377,000円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2025年7月22日～7月30日

○ 教職員PCリプレイス

- ・工事概要 教職員PCをリプレイスした。
- ・工事費用 46,200,000円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2025年5月1日～8月31日

○ プロキシサーバーリプレイス

- ・工事概要 サーバーを更新した。
- ・工事費用 4,950,000円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2025年8月17日～8月24日

②女子部門

○ 体育センタープール天井工事

- ・工事概要 天井板の経年劣化により、軽量な天井板への貼替および内壁のクラックの補修作業を実施した。
- ・工事費用 54,010,000円
- ・施工業者 清水建設株式会社
- ・工事期間 2025年1月30日～4月9日

○ 東館屋内消火栓用配管引替工事

- ・工事概要 屋内消火栓配管が漏水のため使用不可の状態になっていたことから、漏水箇所の配管引替を実施した。
- ・工事費用 12,738,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2025年8月1日～8月22日

○ 仙川キャンパス高圧ケーブル更新工事

- ・工事概要 第一変電室への引き込みケーブルについて、経年劣化により交換を推奨されていたため、更新を実施した。
- ・工事費用 2,123,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2025年12月28日

○ 短大小劇場床研磨工事

- ・工事概要 経年劣化による小劇場の床の傷・汚れが酷かったため、研磨工事を実施した。
- ・工事費用 1,210,000円
- ・施工業者 サミット工業有限会社
- ・工事期間 2025年8月17日～8月19日

○ 初等部校舎LED化工事

- ・工事概要 省エネ対策の一環として、初等部高学年校舎の教室および低学年校舎の共用部のLED化工事を実施した。
- ・工事費用 4,290,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2025年8月4日～8月6日、10月25日

③音楽部門

○ 調布キャンパススタジオ工事

- ・工事概要 作曲コースMSD (Music and Sound Design) 開講に向け、調布キャンパスの2部屋をそれぞれレコーディングブース、コントロールルームに改修した。
- ・工事費用 52,353,897円
- ・施工業者 株式会社ソナ
- ・工事期間 2025年7月25日～10月31日

○ 調布キャンパススタジオ音響等機材一式

- ・工事概要 完成した調布キャンパススタジオに必要な機材を購入した。
- ・工事費用 5,802,494円
- ・施工業者 株式会社ソナ、株式会社リアルソニード
- ・工事期間 2025年10月31日

(2) 学費及び補助金等

①男子部門

学費 (単位:円)

項目 学校名	入学金	進学科	授業料 (月額)	教育環境整備費 (月額)	生徒諸費 (月額)	入学検定料
桐朋高等学校	300,000	230,000	42,200	12,350	3,500	25,000
桐朋中学校	300,000		43,200	12,350	3,500	25,000 *
桐朋学園小学校	300,000		43,200	16,350	3,500	25,000

* 第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校 桐朋中学校 桐朋学園小学校	383,243,300 246,455,200 131,649,900
私立高校等授業料軽減助成金		269,975,300
結核予防費都費補助金		104,573
都内生就学促進補助金		791,400
就学支援金学校事務費補助金		1,862,000
外国語指導助手活用事業費助成金		10,354,920
省エネ設備等導入事業費助成金(小・中・高)		19,110,000
災害時対応環境整備費助成金(小・中・高)		1,624,000
ICTタブレット新入生端末整備費助成金		2,965,000
計		1,068,135,593

学園債 2025年4月～2026年3月までの受入額

桐朋高等学校	6,200,000
桐朋中学校	37,600,000
桐朋学園小学校	18,500,000
計	62,300,000

②女子部門

学費 (単位:円)

学校名			入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園 芸術 短期大学	芸術科	音楽専攻	420,000	170,000	1,132,000	80,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	330,000	170,000	1,007,000	70,000	32,000	120,000	35,000
	専攻科	音楽専攻	10,000	—	1,017,000	70,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	10,000	—	1,007,000	70,000	32,000	130,000	35,000

学 校 名	入学金 進学手続料	施設拡充費	授業料 (月額)	施設維持費 (月額)	生徒児童諸料 (月額)	教育充実費 (年額)	入学検定料
桐 朋 女 子 高 等 学 校	230,000	100,000	44,700	12,500	2,000	—	23,000
	100,000						
桐 朋 女 子 中 学 校	270,000	100,000	44,700	12,500	2,000	—	25,000
桐 朋 小 学 校	300,000	100,000	52,100	11,500	2,000	24,000	25,000
桐 朋 幼 稚 園	300,000	—	49,600	10,500	2,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金 桐朋学園芸術短期大学	22,061,000
東京都経常費補助金 桐朋女子高等学校 桐朋女子中学校 桐朋小学校 桐朋幼稚園	322,474,000 193,941,300 121,553,600 16,011,100
授業料等減免費交付金(短)国庫	23,435,500
結核予防費都費補助金(短・高)	86,357
私立高校授業料軽減助成金(高)	146,365,900
都内生就学促進補助金(高)	464,100
就学支援金学校事務費補助金(高)	947,000
外部検定試験料助成(高)	2,789,000
新入生端末整備費助成金(高)	5,925,000
私立幼稚園預かり保育推進補助金(幼)	1,240,000
DXハイスクール補助金	5,000,000
理科教育設備整備費補助金(小)国庫	2,099,000
理科教育設備整備費補助金(小)都	1,049,500
私立幼稚園教職員研修費補助金(幼)	50,000
災害時対応環境整備費補助金(中)	525,000
省エネ設備導入事業費補助金(小)	2,860,000
私立幼稚園事務取扱補助金(幼)	120,000
デジタル教育環境整備費補助金(小・中・高)	1,319,000
緑の補助金	250,120
調布市物価高騰対策補助金(幼)	368,676
保存樹木せん定補助金	500,000
計	871,435,153

教育環境整備寄付金 2025年4月～2026年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	2,200,000
桐朋女子中学校	5,400,000
桐朋小学校	9,100,000
桐朋幼稚園	4,100,000
計	20,800,000

③音楽部門

学費 (単位:円)

項目 学校名	入学金	教育充実費	授業料	施設設備費 (施設拡充費)	学生生徒 諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	50,000 (本学卒業) 250,000 (他大学卒業)	100,000	1,200,000	200,000	—	30,000
桐朋学園大学	160,000	300,000 (各年次)	1,445,000	390,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 研究生	320,000 (外部のみ)	—	450,000	100,000 (外部生) 70,000 (内部生)	—	55,000 (新規外部) 5,000 (内部・継続外部)
桐朋学園大学音楽学部 ソリスト・ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 カレッジ・ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校 音楽科	200,000 (外部生) 100,000 (※)	300,000 (各年次)	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ・ アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

※ 桐朋中学校及び桐朋女子中学校卒業

補助金

国庫補助金

一般補助(大学院大学)	6,470,000
一般補助(大学)	50,343,000
特別補助(大学) 大学院等の機能の高度化 大学院における研究の充実 大学院生に対する授業料減免事業等支援	2,887,000 900,000
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)	50,301,000
計	110,901,000

東京都補助金

一般補助(高校)	72,762,500
特別補助(高校)	6,711,200
都内生就学促進補助(高校)	412,800
結核予防費補助(高校)	19,565
結核予防費補助(大学)	64,431
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	28,651,000
就学支援金学校事務費補助(高校)	569,000
計	109,190,496

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	200,000,000
施設整備費補助金(大学院大学)	15,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ・アカデミー)	20,000,000
計	235,000,000

(3) 入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般 約50名	248	239	167	67
	内部 -	245	241	245	245
	計	493	480	412	312
中学校	一般 第1回 約110名	420	384	129	112
	一般 第2回 約60名	628	490	218	63
	内部 -	71	67	71	71
	計	1119	941	418	246
小学校	男子 68名	463	411	49	33
	女子	191	153	69	34
	計	654	564	118	67

②女子部門

桐朋学園芸術短期大学

()男子内数

			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
芸術科音楽専攻	総合型A	I 期	30	6	6	6	6 (2)
		II 期		3	2	2	2 (0)
		III 期		4	4	4	3 (1)
		IV 期		5	5	5	5 (1)
	総合型B	I 期		1	1	1	1 (0)
		II 期		0	0	0	0 (0)
		III 期		0	0	0	0 (0)
	社会人	I 期		1	1	1	1 (0)
		II 期		1	1	1	1 (1)
		III 期		1	1	1	1 (1)
	学校推薦型		10	0	0	0	0 (0)
一般	A方式	10	0	0	0	0 (0)	
	B方式		0	0	0	0 (0)	
計			50	22	21	21	20 (6)
専修芸術科内訳音楽専攻	ピアノ		—	12	11	11	10 (3)
	声楽		—	6	6	6	6 (1)
	ユーフォニウム		—	1	1	1	1 (1)
	ヴァイオリン		—	1	1	1	1 (0)
	箏		—	1	1	1	1 (0)
	笛		—	1	1	1	1 (1)
	計				22	21	21
演芸芸術科専攻	総合型A	I 期	40	34	33	33	33 (5)
		II 期		16	16	16	14 (2)
	総合型B			5	5	5	5 (2)
	学校推薦型		20	8	8	7	7 (0)
	一般		10	11	8	8	7 (0)
	計			70	74	70	69
芸術科 計			120	96	91	90	86 (15)
専攻科			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
	演劇専攻	内部	20	17	16	16	16 (3)
		外部		1	1	1	1 (0)
	音楽専攻	内部	20	13	13	13	13 (1)
		外部		2	2	2	2 (0)
	計			40	33	32	32

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校 (普)	推薦		約25	10	10	10	10
	帰国生		約30	8	7	6	3
	一般		約40	22	20	20	11
		計		40	37	36	24
	内部進学		—	—	—	—	141
		計	—	40	37	36	165
中学校	一般(A入試)		約130	108	98	95	69
	論理的思考力&発想力入試		約40	24	21	13	6
	Creative English		約10	14	8	5	0
	一般(B入試)	2科	約40	77	18	14	3
		4科		69	30	29	2
	帰国生		約20	3	3	3	1
		計	約240	295	178	159	81
	内部進学		—	—	—	—	56
		計	—	295	178	159	137
小学校	男子	47	345	281	40	23	
	女子		159	109	51	23	
		計	47	504	390	91	46
	内部進学		—	—	—	—	26
		計	—	504	390	91	72
幼稚園	男子	26	62	61	13	13	
	女子		19	17	14	13	
		計	26	81	78	27	26

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学 校 ・ 学 部 名 等		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科					
	修士課程 A日程	45	38	38	35	34
	修士課程 B日程	若干名	14	13	10	10
	修士課程 外国人留学生	若干名	29	28	18	14
	博士後期課程	3	7	7	2	2
	小計	48	88	86	65	60
	音楽学部					
	音楽学科 一般	40	47	46	43	26
	指定校推薦一種	15	15	15	15	15
	指定校推薦二種	50	47	47	47	45
	総合型入試 A日程	25	36	36	35	35
	総合型入試 B日程	若干名	8	8	7	7
	外国人留学生	若干名	6	5	2	1
	特待生	若干名	3	3	3	3
	飛び入学	若干名	0	0	0	0
	小計	130	162	160	152	132
	編入学	若干名	1	1	1	1
桐朋女子高等学校	音楽科 一般	90	46	45	44	42
	一般推薦	10	2	2	2	2
	小計		48	47	46	44
ディプロマ・コース	ソリスト 新規	——	4	4	2	1
	継続	——	12	12	12	11
	カレッジ 新規	——	36	35	33	27
	継続	——	42	42	42	41
	小計		94	93	89	80
研究生	[1] 内部新規	——	13	13	12	10
	[2] 継続	——	22	22	20	16
	[3] 外部新規	——	19	19	16	15
	小計		54	54	48	41
科目等履修生(一般)		——	14	14	14	14
科目等特別履修生(外国人)		——	2	2	1	1
計			463	457	416	373

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻					
	修士課程 特待生	——	3	3	0	0
	一般	10	8	8	6	6
小計			11	11	6	6
科目等履修生			5	5	5	5
桐朋オーケストラ・アカデミー		——	140	140	31	28
計			156	156	42	39

(4) 教職員研究研修

①男子部門

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
高校	岩崎 晴彦	芥川龍之介『河童』と『ガリバー旅行記』における「大逆事件」	「文学と教育」233号、文学教育研究者集団 編集・発行	2025年7月31日
	田中 敦英	「島岡丘博士と日本の英語音声教育」(共著)	ELEC同友会英語教育学会研究紀要	2026年3月31日
中学	上原 隼	授業実践記録 プラネタリウムを活用した宇宙の学習	啓林館ウェブサイト https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/ko u/jissen/202510-03/	2025年10月8日
		私立中高のICTとAIについて	『教育2月号』 教育科学研究会	2026年2月1日

②女子部門

◎部門内研修制度利用者

所属	氏名(代表者)	研 究 課 題
中高部	吉崎 亜由美	ジェンダー規範と性の多様性をテーマとした地理総合の参加型学習における生徒の変容プロセス

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー368 『寂しさにまつわる宴会』(上田久美子) 『Yes Means Yes』(詩森ろば) 『リボン』(渡辺えり)	テアトロ(1041) 5-7	2025年4月
		書評『越境文化演劇』	図書新聞 (3684) 6	2025年4月19日
		不条理という時代を写す作家たち―松本哲也、細川洋平、安藤奎	テアトロ(1042) 18-19	2025年5月
		福田善之の戦後派焼跡演劇と焼跡音楽劇 『演劇は戦争体験を語り得るのか』	早稲田大学出版部 68-77	2025年6月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー370 『ドブへ』(細川洋平) 『ずれる』(前川知大) 『紙芝居の絵の街へ』(唐組)	テアトロ(1045) 5-7	2025年8月
		『少女仮面』―唐十郎の文体と渡辺えりの肉体の出会いとところ	テアトロ(1047) 26-27	2025年9月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー374 『廃墟』『そぞろの民』(トラッシュマスターズ) 『おばあちゃんの思い出』(ファクトリーカンパニー ア・トランスアドリアティカ)りっかりっか*フェスタより 『カデナ』(池澤夏樹原作 藤井ごう演出)ACO沖縄製作	テアトロ(1048) 5-7	2025年10月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー376 『誠實浴池 せいじつよくじょう』(Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ペニノ) 『Eternal Labor』(オル太) 『われわれなりのロマンティック』(いいへんじ)	テアトロ(1050) 5-7	2025年12月
		もったいない語辞典	読売新聞夕刊	2025年12月19日
		演劇書回顧 (2025年)	読書人(3619) 9	2025年12月19日
		「近代演劇を超えて」2025年演劇回顧	図書新聞 (3720) 6	2026年1月24日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー378 『狩場の悲劇』(二兎社) 『カタブイ、2025』(名取事務所) 『森の直前の夜』(鴎座)	テアトロ(1052) 33-35	2026年2月

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
中高部	河野 孝 小山内 伸 江原 吉博 高橋 宏幸	総括座談会 2025年の日本の演劇界「戦後80年がもたらしたもの」	テアトロ(1052) 5-30	2026年2月
	高橋 宏幸	国際共同製作の成果とベストたる作品をとりまくワーストさ	テアトロ(1053) 12-12	2026年3月
	内藤 芳宏	ヨーロッパを地理の授業で語る～「森も見て、木も見る」地理屋の心	古今書院「地理」8月号	2025年8月1日

③音楽部門
「桐朋学園大学研究紀要」第51集

◎論文

大学	沼野 雄司	第二次世界大戦下のアメリカ音楽界 ——Musical America誌の調査を通して
	安田 和信	L.v.ベートーヴェンのシンフォニー第1番 ——その「新規性Neuheit」についての考察
	上尾 信也	ジョングルールの声—「bon son」(よき音)と「dolce melos」(甘美なる調べ)にみる感情と音楽 1 「bon son」(よき音)編
	西原 稔	ブライトコップフ・ウント・ヘルテル社刊《ショパン全集 Friedrich Chopin's Werke.Erste kritisch durchgesehene Gesamtausgabe》におけるブラームスによるショパンの作品校訂の研究 ——戦後ドイツのヒンデミット受容

◎研究ノート

大学	杵鞭 広美	「ギフテッド(gifted)」教育に関する研究動向
----	-------	---------------------------

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：百万円)					
科 目	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末	2025年度末
固定資産	24,214	23,972	23,266	22,519	22,034
有形固定資産	19,396	18,903	18,240	17,574	17,068
土地	1,397	1,397	1,397	1,397	1,397
建物	14,517	14,051	13,530	12,940	12,485
構築物	791	737	690	638	587
教育研究用機器備品	913	928	835	805	787
管理用機器備品	79	73	63	53	54
図書	1,698	1,717	1,726	1,742	1,756
車両	0	0	0	0	2
建設仮勘定	0	0	0	0	0
特定資産	4,179	4,188	4,144	4,066	4,107
その他の固定資産	639	881	882	879	858
流動資産	4,243	4,077	4,003	3,823	3,417
現金預金	3,724	3,535	3,449	3,180	2,878
その他の流動資産	520	542	554	643	540
資産の部合計	28,457	28,049	27,269	26,342	25,451
固定負債	4,847	4,654	4,362	4,050	3,916
長期借入金	2,076	1,897	1,720	1,542	1,364
退職給与引当金	2,451	2,419	2,311	2,183	2,237
その他の固定負債	319	337	330	325	315
流動負債	1,810	1,692	1,593	1,610	1,780
短期借入金	178	179	178	178	178
前受金	962	896	783	816	746
その他の流動負債	671	618	632	617	856
負債の部合計	6,657	6,346	5,954	5,660	5,696
基本金	31,041	31,473	31,756	31,997	32,323
第1号基本金	29,976	30,408	30,691	30,932	31,258
第3号基本金	423	423	423	423	423
第4号基本金	642	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314	△ 12,569
翌年度繰越収支差額	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314	△ 12,569
純資産の部合計	21,800	21,703	21,315	20,683	19,754
負債及び純資産の部合計	28,457	28,049	27,269	26,342	25,451

イ) 財務比率の経年比較

(単位：①は年、②～⑤は%)

①運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 経常支出	0.6 (1.5)	0.6 (1.5)	0.6 (1.5)	0.6 (1.4)	0.6
②流動比率	流動資産 流動負債	234.3 (260.2)	240.9 (263.8)	251.3 (261.0)	237.4 (259.2)	191.9
③総負債比率	総負債 総資産	23.3 (14.2)	22.6 (14.0)	21.8 (13.9)	21.4 (13.8)	22.3
④前受金保有率	現金預金 前受金	387.2 (416.6)	394.7 (424.2)	440.6 (433.2)	389.9 (417.8)	385.6
⑤積立率	運用資産 要積立額	52.9 (73.1)	49.6 (73.4)	46.9 (71.9)	45.2 (71.0)	40.8

※()の比率:令和7年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(2) 事業活動収支計算書関係
ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

		(単位：百万円)				
科 目		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,009	5,967	5,845	5,203	5,338
	手数料	99	103	98	105	101
	寄付金	68	54	81	113	87
	経常費等補助金	1,861	1,838	1,819	2,346	2,324
	付随事業収入	10	7	7	8	17
	雑収入	153	217	91	185	125
	収入計	8,199	8,186	7,942	7,959	7,992
	人件費	5,553	5,625	5,467	5,757	5,828
	教育研究経費	2,463	2,405	2,486	2,452	2,448
	うち減価償却額	845	742	747	724	688
	管理経費	478	427	439	469	468
	うち減価償却額	107	76	77	79	72
	徴収不能額等	3	1	0	0	4
	支出計	8,497	8,458	8,392	8,678	8,748
収支差額		△ 298	△ 272	△ 450	△ 719	△ 757
教育活動外収支	受取利息・配当金	14	22	16	19	29
	その他の教育活動外収入	0	0	25	0	0
	収入計	14	22	41	19	29
	借入金等利息	11	10	10	9	8
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	支出計	11	10	10	9	8
収支差額		3	12	32	11	21
経常収支差額		△ 295	△ 260	△ 419	△ 708	△ 736
特別収支	資産売却差額	131	0	0	0	0
	その他の特別収入	52	180	83	86	100
	収入計	184	180	83	86	100
	資産処分差額	16	14	18	8	35
	その他の特別支出	2	3	34	1	257
	支出計	18	18	52	10	292
収支差額		165	162	31	76	△ 192
基本金組入前当年度収支差額 (事業活動収支差額比率)		△ 130 (△1.55%)	△ 98 (△1.16%)	△ 388 (△4.81%)	△ 632 (△7.84%)	△ 928 (△11.43%)
基本金組入額合計		△ 260	△ 432	△ 283	△ 255	△ 330
当年度収支差額		△ 390	△ 529	△ 671	△ 887	△ 1,258
前年度繰越収支差額		△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314
基本金取崩額		400	0	0	15	4
翌年度繰越収支差額		△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314	△ 12,569
(参考)						
事業活動収入計		8,397	8,388	8,066	8,065	8,120
事業活動支出計		8,527	8,486	8,453	8,697	9,049

イ) 財務比率の経年比較		(単位：%)				
人件費比率	人件費	67.6	68.5	68.4	72.1	72.6
	経常収入	(46.3)	(46.1)	(46.5)	(46.5)	
教育研究経費比率	教育研究経費	29.9	29.3	31.1	30.7	30.5
	経常収入	(40.4)	(42.2)	(43.7)	(44.3)	
管理経費比率	管理経費	5.8	5.2	5.4	5.8	5.8
	経常収入	(6.4)	(6.7)	(6.9)	(6.8)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	-1.5	-1.1	-4.8	-7.8	-11.4
	事業活動収入	(7.2)	(5.0)	(3.8)	(3.1)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	73.1	72.6	73.2	65.2	66.5
	経常収入	(48.7)	(48.7)	(48.7)	(47.7)	
経常収支差額比率	経常収支差額	-3.5	-3.1	-5.2	-8.8	-9.1
	経常収入	(6.6)	(4.7)	(2.7)	(2.1)	

※()の比率:令和7年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(3) 資金収支計算書関係
ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
収 入					
学生生徒等納付金収入	6,009	5,967	5,845	5,203	5,338
手数料収入	99	103	98	105	101
寄付金収入	69	54	81	112	133
補助金収入	1,908	1,908	1,897	2,379	2,375
資産売却収入	350	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	11	5	7	6	20
受取利息・配当金収入	17	25	19	22	32
雑収入	224	287	321	392	280
借入金等収入	66	86	73	72	62
前受金収入	962	896	783	816	746
その他の収入	1,188	1,040	1,085	1,122	1,152
資金収入調整勘定	△ 1,409	△ 1,443	△ 1,383	△ 1,365	△ 1,279
前年度繰越支払資金	3,014	3,724	3,535	3,449	3,180
収入の部合計	12,507	12,651	12,360	12,314	12,140
支 出					
人件費支出	5,582	5,726	5,779	6,092	5,929
教育研究経費支出	1,618	1,663	1,739	1,729	1,760
管理経費支出	373	354	396	391	397
借入金等利息支出	11	10	10	9	8
借入金等返済支出	239	264	244	263	244
施設関係支出	71	136	86	11	136
設備関係支出	119	133	97	82	146
資産運用支出	323	340	158	147	214
その他の支出	643	655	596	597	595
資金支出調整勘定	△ 195	△ 165	△ 195	△ 187	△ 166
翌年度繰越支払資金	3,724	3,535	3,449	3,180	2,878
支出の部合計	12,507	12,651	12,360	12,314	12,140

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,272	8,252	8,146	8,164	8,149
教育活動資金支出計	7,571	7,740	7,880	8,210	8,085
差引	701	512	265	△ 47	64
調整勘定等	84	△ 130	△ 94	△ 67	22
A 教育活動資金収支差額	785	381	171	△ 114	86
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	348	77	139	53	163
施設整備等活動資金支出計	390	320	333	195	435
差引	△ 42	△ 242	△ 194	△ 142	△ 272
調整勘定等	163	△ 0	△ 0	△ 3	0
B 施設整備等活動資金収支差額	121	△ 243	△ 194	△ 145	△ 272
小計(A+B)	906	139	△ 23	△ 259	△ 186
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	659	697	660	710	604
その他の活動資金支出計	858	1,024	721	720	722
差引	△ 198	△ 328	△ 61	△ 10	△ 118
調整勘定等	2	0	△ 1	1	1
C その他の活動資金収支差額	△ 197	△ 327	△ 63	△ 9	△ 117
支払資金の増減額(小計+C)	710	△ 189	△ 86	△ 269	△ 303
前年度繰越支払資金	3,014	3,724	3,535	3,449	3,180
翌年度繰越支払資金	3,724	3,535	3,449	3,180	2,878

ウ) 財務比率の経年比較

教育活動資金収支差額比率

教育活動資金収支差額	9.48	4.61	2.10	-1.39	1.05
教育活動収入	(14.6)	(12.0)	(11.4)	(9.4)	

※()の比率:令和7年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

2 その他

(1) 資産運用の状況

- ・ 運用目的

・ 運用方針及び運用対象

・ 運用に関するガバナンス体制

・ 本年度の運用概況
- 教育及び研究事業の支援並びに学生生活の支援（奨学金含む）、若手音楽家の顕彰助成事業費への充当
資産運用は、恒常的な資金保有計画及び支払計画に支障のない範囲で、安全かつ有利を基本として行い、運用対象は、元本が保証されている安全な有価証券及び預貯金等
経理担当者の起案を予算会議で検討した上で、経理責任者たる各部門の選出理事若しくは理事長が決裁。予決算の審議を行う理事会において状況報告を行い、理事会のチェックを受ける。
預貯金以外の運用概況については、下記の通り。

(単位：千円)

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	64,438	39,175	特定資産(江戸奨学引当特定資産)
債券	国債	1口	12,116	12,103	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	30,282	30,258	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	101,702	99,567	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	102,656	99,205	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	21,550	20,746	有価証券
債券	国債	1口	49,961	47,045	有価証券
債券	国債	1口	203,512	199,080	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,318	18,380	有価証券
債券	国債	1口	49,581	28,460	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	103,256	94,090	有価証券
債券	大阪市公債	1口	101,776	90,900	有価証券
債券	東京都債	3口	300,000	278,570	施設設備引当特定資産
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	日本製鉄(株)	8250口	896	4,751	有価証券
株式	東京電力ホールディングス(株)	3897口	811	2,490	有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	1口	100	100	有価証券
		計	1,163,156	1,064,921	

(2) 学校債の状況

(単位：千円)

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限
2020年度	51,900	0.00%	2027年3月
2021年度	61,200	0.00%	2028年3月
2022年度	65,100	0.00%	2029年3月
2023年度	72,200	0.00%	2030年3月
2024年度	71,900	0.00%	2031年3月
2025年度	61,200	0.00%	2032年3月
計	383,500		

(3) 寄付金の状況

(単位：千円)

種類	金額	使用実績等
男子部門		
桐朋奨学会基金への寄付	5,875	入学決定後の家計状況急変により就学困難となったご家庭の支援に使用
緑と文化の基金への寄付	1,918	学年主催の文化行事への補助(講演会等)、校内緑化、植樹、みや林再生資金の一部、子どもたちの「夢」を育む企画等への補助に使用
一般寄付	2,075	男子部門所管学校の教育・運営に充当
現物寄付(図書他)	806	
女子部門		
奨学会への寄付	5,311	在学中に経済的困窮となった学生、生徒、児童に給付
生徒特別教育活動基金への寄付	1,360	部活動での遠征など、生徒の教育活動を支援するために使用
帰国子女教育活動基金への寄付	260	帰国生に対する補習講座費及び帰国生教育の研究に充当
一般寄付	27,066	女子部門所管学校の教育・運営に充当
現物寄付(教卓、ウォータークーラー、図書他)	895	
音楽部門		
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカランシップ」寄付金	22,000	次世代の音楽界を担うことが期待される学生・生徒に給付
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	6,000	入試成績優秀者かつ経済的に困難な大学院生に給付
若手音楽家支援プロジェクト寄付金(若手音楽家支援プロジェクト)	50	宗次ホールを借りた桐朋生以外の学生・若手音楽家に関係経費を負担
齋藤秀雄記念教育基金寄付金	130	音楽部門の運営、演奏環境の充実のために使用
奨学寄付基金	13,500	学生・生徒への給付型奨学金として使用
調布キャンパススタジオ工事助成寄付金	47,611	調布キャンパススタジオ工事費用の助成金として使用
一般寄付	200	音楽部門所管学校の教育・運営に充当
現物寄付(楽器)	0	
現物寄付(図書)	725	
計	135,783	

(4) 補助金の状況

ア) 部門別交付額の推移

(単位：千円)

部門・学校\年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
男子部門	桐朋高等学校	412,594	428,153	437,096	721,323	674,787
	桐朋中学校	237,322	258,634	252,589	256,164	261,297
	桐朋学園小学校	122,218	125,673	134,422	134,143	132,052
	計	772,134	812,460	824,107	1,111,629	1,068,136
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	64,395	53,969	50,279	37,159	45,684
	桐朋女子高等学校（普通科）	338,059	339,095	328,972	498,384	484,748
	桐朋女子中学校	185,135	185,485	177,145	182,716	195,246
	桐朋小学校	102,210	107,798	112,069	114,884	128,288
	桐朋幼稚園	13,973	13,769	15,268	16,542	17,470
	計	703,772	700,115	683,733	849,685	871,435
音楽部門	桐朋学園大学院大学	126,332	126,555	111,920	112,096	116,869
	桐朋学園大学大学院	0	0	0	0	19228
	桐朋学園大学音楽学部	128,543	94,759	97,701	85,924	104,476
	桐朋女子高等学校（音楽科）	76,055	75,033	76,721	111,234	109,126
	子供のための音楽教室	0	0	0	0	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	100,995	99,299	103,080	108,676	104,601
	計	431,926	395,646	389,422	417,930	435,091
法人合計		1,907,832	1,908,221	1,897,262	2,379,245	2,374,662

イ) 種類別交付額の推移

(単位：千円)

補助金の種類\年度			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
国庫補助金	経私立 常費大学等 補助金	一般補助	162,564	116,179	97,156	85,034	102,310
		特別補助	4,310	1,938	2,072	2,249	3,787
		計	166,874	118,117	99,228	87,283	106,097
	その他（修学支援新制度授業料減免）	39,631	43,052	49,392	41,257	52,400	
	計	206,505	161,169	148,620	128,540	158,497	
地方公共団体補助金	経東京 常費都 補助金	一般補助	1,288,124	1,297,174	1,329,105	1,380,344	1,437,104
		特別補助	59,551	55,508	54,897	55,992	57,698
		計	1,347,675	1,352,682	1,384,003	1,436,336	1,494,802
	私立高等学校授業料軽減補助金		80,617	77,250	64,882	550,608	444,992
	結核予防費都費補助金		261	263	265	243	275
	私立高等学校都内生就学促進補助金		1,617	1,805	2,029	1,874	1,668
	富山市補助金		215,000	215,000	215,000	215,000	215,000
	その他		56,156	100,052	82,463	46,644	59,428
	計		1,701,326	1,747,052	1,748,642	2,250,705	2,216,166
法人合計			1,907,831	1,908,221	1,897,262	2,379,245	2,374,662

3 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

(1) 男子部門

学校運営上の大きな課題として少子化対策がある。小学校では2025年度よりクラス定員減を始め、1クラス2名の減を実施した。中学・高校ではそれぞれ2026年度、2029年度から定員減（1クラス2名減）を実施する。これに続き、小中高においてそれぞれ2028年度、2032年度、2035年度を目途にさらに1クラスの定員を2名減らす方針を持っている。定員減完成時には現行よりおよそ1割の児童・生徒数の減となる。

クラス定員減と並行して、児童・生徒数の確保の課題がある。まず、学校生活の入口にあたる入学試験では、高校で2026年度より入学金の延納制度および合格発表時における補欠者の発表を導入したが、応募者増への貢献は見定めがたく継続して研究を行う。なお、近年の高校授業料の実質無償化、東京都の私立中学生への授業料支援策等の動向には十分に注意を払い、これらの政策が本校の受験者数にどう影響を及ぼすかも見極めていく。一方、広報活動では、学校説明会で本校を第一志望とする受験生が増える施策を打ち、また、少子化を念頭にウェブ上での存在感を増す情報発信を計画的に行う。そして最後、学校生活の出口にあたる進路指導では、在校生のもつ潜在能力への刺激を狙い、特に高校生に一層充実した進路企画を用意する。近年は積極的にOBの研究室・会社を訪問することで生徒が大きな刺激を受けている。今後こうした機会を拡充させていく。

このような教育活動を実践するために、2025年度授業料を月額2,000円、教育環境整備費を1,000円増額した。また、小学校のクラス定員減による学納金減収に対して、その相殺分として定員減実施学年に教育環境整備費をさらに月額4,000円増額した。同様に2026年度には中学のクラス定員減に対して教育環境整備を月額4,000円増額した。

一方、人件費・物件費増への対策が必要である。2024年度から連続する大幅なベースアップ、また建物の大規模改修・ICT関連の機器装備に高額のコストがかかるなど、これまで長らく収入・支出で変動の少なかったデフレ期間を脱却する局面となり、財務見通しに大きな修正を迫られることになった。これらの支出を計上すると、65次(2024年作成)中期見通しでは翌年度繰越支払資金が大きく減少することが判明したため、66次(2025年作成)中期見通しにおいては2028年度に学費(授業料/教育環境整備費)を月額4,000円増額する試算を行い見通しに反映させた。2027年度秋の決定までに精査を進め、保護者負担の抑制を念頭に必要な値上げ額を決定する。なお、物件費の高騰に関連して、校舎建築および大規模修繕等を行う際の財務の安定性を担保する基準の確立も行う。

あわせて、国・都からの補助金収入にも注意を向けている。東京都からの経常費補助金の生徒割単価・教職員割単価は近年連続して上がっている。これは公立学校での人件費増（ベア/教職調整額等）を受け私立への配分が上がっていることによるが、加えて高校の授業料無償化等の政策を見るに、少なくとも数年間は補助金が減額される要因はないであろう。これらの補助金増に一定の期待を持ちつつ、学費の値上げをどこまで抑制できるかがポイントとなる。

これらの収支を踏まえた上で、今後15年間の翌年度繰越支払資金の推移をみると、2032年度まで現校舎の借入金返済が続き、かつ2023年度より開始した次の校舎建築の積立支出がダブルで重なるため、翌年度繰越支払資金は2034年度まで減少する見通しである。しかし、借入金の完済後は復調が見込まれるので、それまでの収支には特に注意を払い、支払資金の減少を少しでも緩和させる方策が求められる。

次に働き方改革について。2026年1月より公立学校で教職調整額が4%から5%に増加されたことを受け、男子部門でも同様の措置を取った。今後10%まで年次引き上げられることを前提に財務の見通しを組む。あわせて残業代支給の可能性について研究し、所定労働時間外の業務遂行に対し、何を教職調整に含ませ、何を残業代支払い相当とみなすかの類型化を検討する。

最後に育児世代への支援、メンタル不調者への対応、研修制度・自己研鑽のための支援にも費用が必要である。また、昨今の教職員の負担に業務の専門化がある。児童・生徒のメンタル面での指導（カウンセリング）、外部機関（弁護士、社労士、児童相談所、ソーシャルスクールワーカー、警察など）との連携等、これらは教職員が意識的に体得すべきスキルであろう。一方、専門的な見地は専門家に求めたほうが教職員の時間・精神面での負担は圧倒的に緩和され、結果、働き方改革を促すことになる。教職員の心が安定し、余裕をもって児童・生徒に向き合える・業務に取り組めることが、より良い教育を生み出す前提条件である。学費の増、支出の削減などすべてにわたって中長期的展望に立って財務の検討を進める。

（２）女子部門

2025年度は、少子化の進行、物価高騰、人件費上昇など、私立学校を取り巻く経営環境が一層厳しさを増す中で、女子部門として中長期的な持続可能性を見据えた経営判断を進めた一年であった。

女子部門では、2017年度以降、恒常的に収支差額がマイナスとなっており、基本金組入前当年度収支差額についても1億円を超える支出超過が継続している。特に近年は、東京都人事委員会勧告に伴うベースアップの影響もあり、人件費支出が増加している。一方で、少子化の進行に伴い、学納金収入の大幅な増加を見込むことは難しく、学納金収入に対する人件費比率は依然として高い水準にある。こうした構造的課題への対応は、女子部門全体における最重要課題の一つとなっている。

このような状況を踏まえ、2018年度より検討を続けてきた校舎再開発計画については、一時凍結の判断を行った。最大の要因は、コロナ禍以降の急激な建築費高騰であり、当初想定していた事業費を大きく上回る状況となったことである。また、借入金利の上昇により、長期的な返済計画の策定が困難となったことも大きな要因である。さらに、少子化を踏まえた今後の学校規模や教育環境の在り方について、改めて慎重な検討が必要であるとの判断に至った。今回の凍結判断は、単なる施設計画の延期ではなく、女子部門全体の財務安定性を優先した経営上の判断である。一方で、施設設備の老朽化への対応は避けることができない課題であり、安全面や教育環境維持に直結する工事については継続的に実施している。特に屋上防水、設備更新、配管工事等については、教育活動への影響を最小限に抑えながら進めている。また、将来的な仙川キャンパス再整備も視野に入れ、建物診断等を実施することを決定した。全面建替えではなく、既存施設を長期的に有効活用する方向へ方針転換を行ったことは、2025年度における大きな経営判断であった。

教育活動においては、各学校がそれぞれの特色を活かしながら教育内容の充実に取り組んだ。幼稚園・小学校では、少子化が進行する中でも定員を充足しており、これまで積み重ねてきた教育活動や広報活動の成果が一定程度現れている。一方、中学校では入学者数が前年を下回り、中高全体の在籍者数も減少した。2023年度・2024年度の入学者数を基に想定していた学校規模との乖離が生じており、今後は学校規模の適正化や教育体制を含めた将来構想の見直しが必要となっている。そのため、2026年度は、中高部における広報活動を女子部門全体の最重点課題の一つとして位置づけ、重点的に取り組む方針である。特に、中学校入学者数については、2024年度並みの入学者数を再び確保できるよう、学校説明会、塾訪問、外部説明会、ホームページ・SNS発信などを強化し、本校の特色を積極的に発信していく必要がある。また、高等学校についても、高校募集の強化を進め、現在30名弱となっている高校入学者数を、将来的には40名程度までは増加させることを目標としている。その実現に向けては、単なる広報量の拡大だけではなく、本校の教育内容や特色を改めて整理し、受験生・保護者に対して分かりやすく発信していくことが重要である。本校が持つ自由選択制の教育課程や多様な進路実績など、本校独自の教育的価値をより明確に打ち出していく必要がある。また、2027年度導入予定の新制服についても、学校改革やイメージ刷新の一つとして広報戦略に活用していきたいと考えている。

短期大学においては、演劇専攻で一定の回復傾向が見られたものの、音楽専攻では依然として厳しい状況が続いている。一方で、短期大学全体の在籍者数については、専攻科を含め250名となり、前年度と比較して5名増加しており、学生数は下げ止まりの傾向も見られる。特に演劇専攻については、2025年度入学者数が66名となり、回復傾向が見られたことは一定の成果である。今後は、この流れを安定的な学生確保へつなげていくことが重要となる。

また、短大旧館地下食堂の改修による実習室整備についても計画が進んでおり、演劇専攻の教育環境改善につながることが期待される。加えて、八ヶ岳高原寮については、物価高騰への対応として利用料金改定を実施したものの、依然として収支改善は限定的である。2028年度までは継続使用を決定したが、2029年度以降については、施設維持のみならず、利用率向上、賃貸活用、売却可能性も含め、多角的な視点から将来構想を検討していく必要がある。

さらに、教育現場においては、ICT環境整備や生徒支援体制の強化など、時代の変化に対応した教育基盤整備を継続して進めている。一方で、教育活動の質を維持しながら財務改善を進めるためには、限られた経営資源をどこへ重点配分するかという視点が、今後さらに重要になる。

今後の女子部門経営においては、少子化を前提とした学校規模の適正化、計画的な人事戦略による人件費管理、広報活動強化による安定的な入学者確保、寄付金制度の充実等を重点課題として進める必要がある。また、単年度収支だけではなく、中長期的な教育理念・学校規模・施設整備・財務体制を一体的に捉えた経営ビジョンを具体化していくことが求められる。

女子部門としては、教職員、生徒学生、保護者、卒業生、地域社会を含む多くの関係者と連携しながら、社会環境の変化に柔軟に対応し、持続可能な学園運営と教育改革を進めていきたいと考えている。

（３）音楽部門

音楽部門の経営においては、収入の大きな部分を学生生徒等納付金が占めており、在籍者数及び新入生確保の状況が経営に直結する構造となっている。そうした大学学部においては、2024年度の新入生111名に対し、2025年度は134名、2026年度は132名の新入生を迎えることができた。大学院においても、2025年度は2024年度を13名上回る66名の新入生を確保し、2026年度についても60名の新入生を迎えており、引き続き一定数の学生確保ができています。特に大学院については、留学生の受入れや新たな領域の開設が学生数の増加につながっており、一定の成果が現れている。

一方で、学納金収入全体としては、昨年度比で約7千万円の減収となった。主な要因は、大学学部における在籍者数の減少である。2024年度末に171名の卒業生を送り出したのに対し、2025年度の新入生は134名であり、入学者数が卒業生数を下回ったことが、在籍者数減少の大きな要因となった。また、年度途中に判明した音楽教室の生徒数減少も、収入面に少なからぬ影響を及ぼしている。学部においては、少子化の進行に加え、音楽分野における進路選択の多様化等により、学生確保をめぐる環境は引き続き厳しい。こうした状況の中、学生数を一定程度維持していけるよう、学生生徒募集におけるさまざまな工夫を重ねるとともに、コースの改編等も視野に入れながら、必要な対応を講じていく必要がある。

音楽教室については、従来、地方を中心に生徒数減少への対応が課題となっていたが、近年は都市部においても減少傾向がみられるようになってきている。音楽教室は本学にとって教育活動の基盤の一つであると同時に、高校・大学への進学動線としても重要な役割を担っていることから、その維持・強化は経営上も重要な課題である。とりわけ仙川本校は、高校への接続性が高い拠点であり、今後、重点的な後押しを図る必要があると認識している。生徒募集や継続率向上に向けた方策を早急に検討し、実行に移していくことが求められる。

一方、新たな取組として、管楽器を中心に小中学生を対象としたジュニアウィンドを開始し、初年度は46名の参加を得た。加えて、小中学生を対象とした取組として、2024年度に引き続き、弦楽器及びピアノによるサマーアカデミーも実施し、約200名の参加を得た。これらの取組は、将来的に本学への進学につながる新たな導線として期待されるものであり、今後の発展も見込まれる。また、カレッジディプロマについても、受講生を一定数確保することができており、そのうち40歳以上の受講生が約20%を占めていることから、多様な年齢層・学修ニーズに対応できている状況がうかがえる。こうした状況を踏まえ、今後は収益事業としての側面も意識しつつ、大人を対象とした新たなコースの開設を進め、収入源の多様化と拡充を図る必要がある。

大学院（東京）においては、留学生の受入れや新領域の開設に加え、今年度はスタジオ設備の整備を進めることができた。これにより、教育内容の充実だけでなく、大学院の新たな領域展開を支える基盤も整いつつある。今後は、既存分野の充実に加え、本学の特色を生かしながら、社会的要請や学修ニーズに応じた領域開拓をさらに進めることで、安定的な学生確保と教育の魅力向上につなげていく方針である。

支出面では、ベースアップの実施に伴う人件費の増加が大きな要因となっている。このため、収入規模や学生数に見合った組織体制を構築する観点から、大学学部の定員を180名から130名へ見直したことも踏まえ、専任教職員の採用計画を検討・調整している。今後2年間で約15名の退職者が見込まれているが、教員については採用を抑制し、人件費の抑制によって支出増への対応を図る予定である。その一方で、教育の質を維持するためには、専任教員のみならず、特任等の多様な任用形態を活用しながら、必要な教育体制を確保していくことが重要である。

また、職員については、退職者への対応を単なる補充にとどめず、業務の引継ぎ方法や業務配分の見直しを進めるとともに、必要に応じてキャンパス間の異動も含めた体制整備を行っている。限られた人的資源の中で業務運営を安定させるためには、組織全体での業務の効率化と適正配置が不可欠であり、今後も継続して見直しを進めていく。

以上のとおり、2025年度は、学部・大学院における新入生確保や新領域展開に一定の成果がみられた一方で、大学学部在籍者数の減少及び音楽教室生徒数の減少に伴う学納金収入の落ち込みが、経営上の大きな課題として明らかとなった。今後は、学部・大学院・音楽教室それぞれの役割を踏まえた募集強化と接続の再構築を進めるとともに、新たな収益機会の創出、支出構造の見直し、人的配置の最適化を並行して進め、持続可能な経営基盤の確立を図っていく。

Ⅳ 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

1 関係する決議の概要

学校法人桐朋学園は、私立学校法第148条第1項及び第36条第3項第5号に定めるところにより、2024年7月16日理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針（下記）を決定しました。

1 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令及び寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- ② 寄附行為並びに「理事会運営等規程」及び「評議員会運営等規程」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。
- ③ 男子部門及び女子部門の「理事職位内規」、音楽部門の「理事職位規程」に基づき、業務を執行する代表理事及び選出理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。
- ④ 男子部門、女子部門、音楽部門及び法人本部（以下「三部門等」という。）それぞれにおいて、職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。
- ⑤ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び三部門等がそれぞれ定める「文書保存規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。
- ⑥ 内部監査を実施する組織を設けて各部署の職務執行状況等を定期的に監査し、業務の適正性及び効率性を確保する。

2 リスク管理に関する体制

- ① リスク管理に関し、三部門等において体制及び規程等を整備し、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にする。
- ② 「個人情報保護方針」及び三部門等がそれぞれ定める「個人情報の保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。
- ③ 事業活動に関するリスクについては、法令及び本法人の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。
- ④ 内部監査を実施する組織は、職務執行部署において重要リスクが適切に管理されているかを適宜監査し、その結果を理事長に報告する。
- ⑤ 本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。
- ⑥ 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。
- ⑦ 研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的の保護を確保するため、規程等を定めるとともに、必要な措置を講じる。
- ⑧ 理事会は、毎年、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直しを行う。

3 コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事及び職員が法令並びに寄附行為及び本法人の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、三部門等においてコンプライアンスに関する規程等を定める。
- ② 本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ③ 「公益通報等に関する規程」を周知するとともに、匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。
- ④ 内部監査を実施する組織は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事長に報告する。これを受けて、理事長は理事会に報告のうえ、代表理事とともに所要の改善を図る。
- ⑤ 法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、コンプライアンスに関する規程に従って、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応する。

4 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

- ① 監事は、「監事監査規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- ② 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。
- ③ 監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議及び決定内容の適正性について監査を行う。

- ④ 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。
- ⑤ 監事の職務を補助するものとして、監事の求めに応じ、独立性を有する補助職員を配置する。
- ⑥ 補助職員は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとし、当該補助職員の異動、人事評価及び懲戒等については、監事の意見を尊重する。
- ⑦ 補助職員は、監事に同行して、理事会、評議員会等の重要な会議及び理事長との定期的な会合に陪席する。
- ⑧ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、代表理事並びに監事に報告する。
- ⑨ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
- ⑩ 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。
- ⑪ 監事がその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合には、速やかに相当額を支払う。

2 体制整備及び運用状況の概要

(1) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書・帳簿・その他の資料等について、保存及び管理に関する規程を定めており、規程に基づき適切に職務を執行しています。

法人の計算書類及び事業報告書は、法人ホームページにおいて閲覧を可能としています。

理事会及び評議員会の議事録並びに理事長及び業務執行理事から構成される「法人運営審議会」の議事録は、適正に作成し、文書ファイルに綴じて保管しています。理事会及び評議員会の議事録については、閲覧に備えています。

(2) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

学生生徒等及び教職員の安全確保を目的に各部門に保安委員会を設置し、責任者は業務執行理事が務めています。

緊急時の対応については、各部門において規程を定め、適切に対応できるよう体制を整えています。

(3) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

男子部門及び女子部門では「理事職位内規」、音楽部門では「理事職位規程」において、業務執行理事の各部門における担当業務が規定されており、各部門の業務執行理事は規程に基づき適切かつ迅速にその職務を執行しています。

業務執行理事のうち代表理事はそれぞれ、部門内における最終決裁権者として三部門が定めるそれぞれの稟議規程に明記されています。

三部門にはそれぞれ事務局があり、事務分掌規程を整備しています。当該規程に基づき各事務局は適正にその職務を執行していますが、事務の統合など、効率的な運営が検討課題となっています。

(4) 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

2025年度は理事会を13回開催しました。各議案の審議時間の確保、論点の明確化により、非業務執行理事との十分な意見交換を可能とする工夫をし、法令及び寄附行為に基づく適切な運営を行いました。評議員会は5回開催し、予算・決算並びに事業計画、中期計画など法定事項のほか、学費及び中長期の財務計画についても、評議員会の意見を聴取した上で、決定しています。理事会及び評議員会については、それぞれ運営等規程により、それぞれの会議体の役割、権限等を明確にしております。

業務執行理事の職務執行に関しては、理事長及び業務執行理事から構成される「法人運営審議会」を原則月2回開催し、その適正性を確保するほか、理事会・評議員会における審議の効率性も確保しています。

なお、2025年度より「内部監査規程」（2025年2月制定）に基づき内部監査を実施しました。各部門の産業医の勤務実態及び学内組織との関わり等について確認を行っております。

(5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

「監事監査規程」（2025年3月制定）により監事の職務執行の適正性を確保しております。

附属明細書

2025年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。